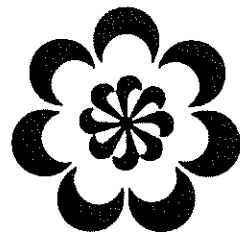


令和7年度  
社会福祉法人永光会  
事業報告書

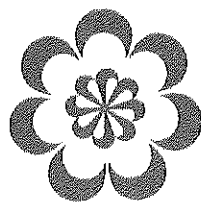


法人本部  
特別養護老人ホーム永光荘  
特別養護老人ホーム清流の郷  
居宅介護支援事業所永光荘  
渋川市古巻地域包括支援センター



令和7年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

法人本部



## 1. はじめに

ここ数年にわたりコロナの後遺症的な影響、人材難や諸物価の高騰などで、安定的な運営を揺るがしかねない状況が続いていたため、ここからの脱却が急務ととらえて、令和7年度は、「健全で安定的な経営基盤の確立」を最重点取組み事項に据え、各事業の運営に当たった。

介護保険収入については、表2に掲げるとおり、令和4年度以降最大となった。また、事業活動資金収支差額等も表1に示す結果を得た。(詳細については各事業報告書・決算書に示す)

特に永光荘については、特養のベッド稼働率は、令和4年度以降続いていた低迷状態から脱し本来に近い形に戻ってきている。デイサービスは、まだ苦戦中ながら、前年度と比較して利用者数が増加し、利用者数の減少に歯止めがかかった兆しが見えた。令和8年度は新しい組織の下、目標の利用者数に到達すべく全力で取り組んでいきたい。一方支出面では、電力契約内容の見直し、清流の郷機械浴更新により省力化、ラインワークス活用のペーパーレス化など細かなコスト削減に取り組み、一定の成果を得たが、人材採用やエネルギーに関するコストの変動が大きく予断は許されない状況である。そのような状況下においても、国が推進する生産性の向上については、人材難の中でより良いサービスを継続するために不可欠であり、各種補助金等を利用しながら、ロボットを始めとする機械や設備へ投資は今後も取り組んで行かねばならない課題である。

永光会中期行動計画(2023年～2025年)が令和7年度で終了し、これまでの結果と今後の事業推進を踏まえて次期永光会中期行動計画(2026年～30年)を策定した。高齢者人口がピークとなる2040年への過渡期となるため、安全安心なサービス提供ができるように各事業で掲げた取組み事項を一つひとつ進めていきたい。

令和7年度の法人本部事業計画に掲げた重点取組み事項と事業実績等について、概要を以下に記し総括とする。

### (1) 重点取組み事項

#### 1) 健全で安定的な財政基盤の確立

- ・コロナの影響を受けた永光荘の特養ベッド稼働率が、当初の目標稼働率(94%)に至らなかったものの、令和6年度の91.3%から93%台まで回復し、併設のショートステイを含めた合算の目標稼働率(96%)は、ほぼ達成することができた(95.9%)。デイサービスの利用者実績数は、令和6年度(5,315人)から380人増加し、5,695人となった。
- ・清流の郷については特養、ショートステイ、デイサービスの3事業とも安定した入居者数・利用者数を確保できた結果、当初の目標数を上回り、ここ5年間で最大となった。
- ・居宅介護支援事業所永光荘は、5人体制の業務が定着し、事業所全体の介護・予防プラン作成件数が当初の目標よりも上回った。また、5人体制による特定事業所加算Ⅱの取得効果により、収入も令和6年度よりアップし、収支

表 4

## 評議員会の運営状況

通算 回数	議題・結果
82	<p>*令和6年度事業報告（①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘（管理部、特養部、居宅ケア部（永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）③特別養護老人ホーム清流の郷（管理部、特養部（特別養護老人ホーム、ショートステイ）、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘 ⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和6年度決算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本部会計）について &lt;承認&gt;</p> <p>*監事による監査報告</p> <p>*社会福祉法人永光会役員の選任について &lt;承認&gt;</p>
83	<p>*令和7年度1次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘④本部会計）について &lt;承認&gt;</p>
84	<p>*令和7年度2次補正予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本部会計）について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和8年度事業計画（案）（①法人本部②永光荘（管理部、特養部、デイサービス部）③清流の郷（管理部、特養部、デイサービス部）④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所））について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和8年度予算（案）（①永光荘（特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター）②清流の郷（特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター）③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター（渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所）⑤本部会計）について &lt;承認&gt;</p>

表 5

## 理事会の運営状況

通算 回数	議題・結果
181	<p>*令和6年度事業報告(案) (①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘(管理部、特養部、居宅ケア部(永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)③特別養護老人ホーム清流の郷(管理部、特養部(特別養護老人ホーム、ショートステイ)、デイサービス部)④居宅介護支援事業所永光荘⑤渋川市古巻地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所))について &lt;承認&gt;</p> <p>*令和6年度決算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘、④渋川市古巻地域包括支援センター(渋川市地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所)⑤本部会計)について &lt;承認&gt;</p> <p>*監事による監査報告</p> <p>*社会福祉法人永光会諸規程の制定・改定(①資金運用規程(案)②育児・介護休業などに関する規則(案)について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会次期評議員候補者の推薦について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会の開催について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会役員(案)について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会評議員会の開催について &lt;承認&gt;</p> <p>*理事長及び業務執行理事の職務執行状況について(報告)</p> <p>*寄付の報告について(報告)</p>
182	<p>*理事長の選任について &lt;承認&gt;</p> <p>*業務執行理事の選任について &lt;承認&gt;</p>
183	<p>*令和7年度1次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘④本務会計)について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会資金運用規程に基づく基本的運用計画について &lt;承認&gt;</p> <p>*社会福祉法人永光会評議員会の開催について &lt;承認&gt;</p> <p>*理事長及び業務執行理事の職務執行状況について(報告)</p> <p>*清流の郷ショートステイ及び清流の郷デイサービスセンターの食費変更について(報告)</p>
184	<p>*令和7年度2次補正予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター)②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター)③居宅介護支援事業所永光荘、④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護</p>

予防支援事業所) ⑤本部会計) について ＊令和8年度事業計画(案) (①法人本部②特別養護老人ホーム永光荘(管理部、特養部、デイサービス部) ③特別養護老人ホーム清流の郷(管理部、特養部、デイサービス部) ④居宅介護支援事業所永光荘⑤地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所) ) について ＊令和8年度予算(案) (①永光荘(特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター) ②清流の郷(特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ、清流の郷デイサービスセンター) ③居宅介護支援事業所永光荘④地域包括支援センター(渋川市古巻地域包括支援センター、指定介護予防支援事業所) ⑤本部会計) について ＊社会福祉法人永光会資金運用規程に基づく運用計画について ＊社会福祉法人永光会職員の定年延長について ＊社会福祉法人永光会評議員会の開催について	<承認> <承認> <承認> <承認> <承認> <承認>
---	--

表6 評議員選任・解任委員会の運営状況

通算回数	議題・結果
4	＊社会福祉法人永光会評議員の選任について <承認>

表7 法人委員会・会議関連

会議・委員会名	会議内容	実施回数
法人運営会議	中期計画の見直し策定、コロナウィルス感染症対策、各事業の運営状況確認その他諸課題の検討	11回
広報委員会	ホームページリニューアル後の追加作業、ラインワークスを活用した広報誌「永光会たより」の校正その他企画・検討・発行	4回
管理部会議	評議員会・理事会その他本部事業の運営事務の確認、永光荘・清流の郷における総務・人事等の業務内容の相互理解、行事等の情報交換、およびこれらに付随する諸事項の見直し・提言	4回

## 5. 沿革

1986 (昭和61) 年	6月18日	社会福祉法人永光会 法人認可 初代理事長に真下玄永就任
	7月2日	社会福祉法人永光会 法人成立
1987 (昭和62) 年	4月1日	特別養護老人ホーム永光荘開設 (定員50人) 短期入所 (定員6人) 初代永光荘施設長に飯塚春雄就任
1989 (平成元) 年	2月1日	渋川デイサービスセンター開所 (渋川市委託事業) 永光荘40人増員 (定員90人)
	6月30日	永光荘施設長 飯塚春雄退任
	7月1日	2代永光荘施設長に真下誠治就任
1991 (平成3) 年	8月20日	機関紙「永光会たより」創刊
1992 (平成4) 年	4月1日	真下施設長 群馬県デイサービスセンター連絡協議会初代会長に就任 (~H10.3.31)
1993 (平成5) 年	4月8日	初代理事長真下玄永逝去
	9月22日	2代理事長に梅澤次郎就任
1994 (平成6) 年	1月17日	渋川デイサービスセンター長時間利用開始
	3月30日	渋川デイサービス開所5周年記念事業 ボランティア体験教室感想文集「またくるね」発行
	7月1日	渋川在宅介護支援センター永光荘開設 (渋川市委託事業) 永光荘ホームヘルプサービス事業開始 (渋川市委託事業)
1995 (平成7) 年	2月1日	老人短期入所定員変更6名増員 (定員12人)
	11月14日	群馬県サービス評価委員会の評価受査
1997 (平成9) 年	4月1日	デイサービス名称変更「永光荘デイサービスセンター」
	7月19日	永光荘開所10周年記念式典開催
1998 (平成10) 年	4月1日	永光荘デイサービスセンターE型開所 (定員10人)
1999 (平成11) 年	2月24日	永光荘デイサービスセンター10周年記念式典開催
	8月2日	福祉オンブズマン「はあとらんど」契約締結
	11月1日	在宅介護支援センター永光荘、県指定居宅介護支援事業者認可
	12月31日	永光荘施設長 真下誠治退任
2000 (平成12) 年	1月1日	3代永光荘施設長に梅澤良三就任
	3月10日	特別養護老人ホーム永光荘 (定員90人)、県指定介護老人福祉施設認可 永光荘ショートステイ (定員9人)、県指定居宅サービス事業者認可 永光荘デイサービスセンター (定員35人) 認可 永光荘デイサービスセンターE型 (定員10人) 認可

			永光荘ホームヘルパーステーション認可
2000 (平成12) 年	5月31日		理事長 梅澤次郎退任
	6月1日		3代理事長に真下誠治就任
2001 (平成13) 年	11月22日		評議員会設置
2002 (平成14) 年	1月31日		2代理事長梅澤次郎逝去
2003 (平成15) 年	3月31日		永光荘デイサービスセンターE型廃止
	4月1日		永光荘デイサービスセンターE型を永光荘デイサービスセンターへ統合 (定員45人)
	9月1日		永光荘デイサービスセンター定員5人増員 (50人)
2006 (平成18) 年	4月1日		介護予防事業開始 (短期入所生活介護、通所介護 訪問介護)
2007 (平成19) 年	12月19日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷指定管理者に指定 (平成20年4月1日運営開始)
2008 (平成20) 年	4月1日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷運営開始 (定員: 特養50人、ショート6人、デイサービス25人)
			初代清流の郷施設長に村上忠明就任
			特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ、永光荘デイサービスセンター、在宅介護支援センター永光荘及び永光荘ホームヘルパーステーションの県指定の更新 (6年間)
2010 (平成22) 年	2月28日		永光荘ホームヘルパーステーション廃止
			多機能型居宅ケアグループとして統合 (永光荘ショートステイ・永光荘デイサービスセンター在宅介護支援センター永光荘)
2011 (平成23) 年	12月22日		優良民間社会福祉事業施設として天皇陛下より御下賜金拝受
2012 (平成24) 年	12月19日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理者受託 (運営期間: 平成25年4月1日～平成26年3月31日)
2013 (平成25) 年	3月31日		永光荘施設長 梅澤良三退任
	4月1日		4代永光荘施設長に菊地文夫就任
			多機能型居宅ケアグループを廃止し、永光荘を管理部・特養部・居宅ケア部に編成。居宅介護支援部の中に居宅介護支援事業所永光荘と渋川市在宅介護支援センター永光荘を設置
2014 (平成26) 年	3月31日		渋川市特別養護老人ホーム清流の郷第2期指定管理終了
			居宅介護支援事業所清流の郷休止
	4月1日		渋川市より永光会へ特別養護老人ホーム清流の郷を譲渡
	7月10日		渋川市と「災害時における要援護者の受入れに関する協定書」を締結

- 2015（平成27）年 9月24日 特別養護老人ホーム清流の郷 喀痰吸引等登録  
研修機関の登録
- 9月30日 居宅介護支援事業所清流の郷廃止
- 2016（平成28）年 2月 4日 社会福祉法人永光会 自家用有償旅客運送者登録（福祉有償運送）
- 2016（平成28）年10月27日 特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2016（平成28）年11月30日 永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2017（平成29）年 2月 9日 社会福祉法人永光会評議員選任・解任委員会設置
- 2017（平成29）年 3月31日 永光荘施設長 菊地文夫退任  
清流の郷施設長 村上忠明退任
- 4月 1日 5代永光荘施設長に村上忠明就任  
2代清流の郷施設長に大谷義隆就任
- 7月12日 永光会創立30周年記念式典開催
- 11月 9日 特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 12月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター運営業務受託（運営期間：平成30年4月1日～平成33年3月31日）
- 12月 7日 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審（サービス評価センターはあとらんど）
- 2018（平成30）年 2月23日 渋川市古巻地域包括支援センター 指定介護予防支援事業所指定（平成30年4月1日事業開始）
- 3月14日 永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
- 29日 清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス（渋川市第1号通所事業）指定通知（指定年月日：平成30年4月1日）
- 31日 渋川市在宅介護支援センター永光荘廃止  
居宅介護支援事業所永光荘に名称変更4/1～
- 2018（平成30）年 4月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター運営開始  
永光荘ショートステイ介護予防短期入所生活介護の県指定の更新（2年間）
- 2020（令和 2）年 1月14日 特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ（介護予防含む）、特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ指定通知

(指定年月日：令和 2年4月1日)

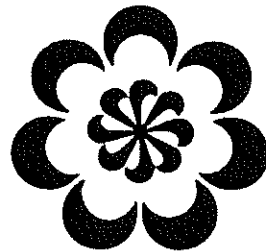
- 2月19日 居宅介護支援事業所永光荘指定通知(指定年月日：令和 2年4月1日)
- 3月 2日 永光荘デイサービスセンター、清流の郷デイサービスセンター指定通知(指定年月日：令和 2年4月1日)
- 8月 7日 渋川市古巻地域包括支援センター運営委託第2期(令和3年度～5年度)受託内定
- 2021(令和 3)年 4月 1日 渋川市古巻地域包括支援センター第2期運営委託開始
- 12月15日 特別養護老人ホーム永光荘 福祉サービス第三者評価受審(サービス評価センターはあとらんど)
- 2022(令和 4)年 1月17日 永光荘デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審(サービス評価センターはあとらんど)
- 12月19日 特別養護老人ホーム清流の郷 福祉サービス第三者評価受審(サービス評価センターはあとらんど)
- 2023(令和 5)年 2月21日 清流の郷デイサービスセンター 福祉サービス第三者評価受審(サービス評価センターはあとらんど)
- 2024(令和 6)年 3月31日 永光荘施設長 村上忠明退任
- 4月 1日 永光荘施設長 藤井功一就任
- 渋川市古巻地域包括支援センター第3期運営委託開始(令和6年度～令和8年度)
- 永光荘デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス(渋川市(2年間)、吉岡町・榛東村(6年間))、清流の郷デイサービスセンター介護予防通所介護相当サービス(渋川市(2年間))の更新
- 渋川市古巻地域包括支援センター指定介護予防支援指定通知(6年間)
- 2025(令和 7)年10月31日 特別養護老人ホーム清流の郷、清流の郷ショートステイ(介護予防含む)指定通知(指定更新：令和8年4月1日)
- 11月 6日 特別養護老人ホーム永光荘、永光荘ショートステイ(介護予防含む)指定通知(指定更新：令和8年4月1日)
- 2026(令和 8)年 1月26日 居宅介護支援事業所永光荘指定通知(指定更新：令和8年4月1日)
- 1月30日 清流の郷デイサービスセンター第1号通所事業指定通知(指定更新：令和8年4月1日)

2026（令和 8）年 3月 9日 永光荘デイサービスセンター第1号通所事業指定  
通知（指定更新：令和8年4月1日）  
3月31日 永光荘デイサービスセンター指定通知（指定更  
新：令和8年4月1日）



令和7年度

# 事業報告書



社会福祉法人永光会

特別養護老人ホーム永光荘

管理部  
特養部  
居宅ケア部



## 1. はじめに(総括)

令和7年度は『その人らしさを尊重し、真のパーソンセンタードケアを目指そう!』を施設方針に掲げ、令和6年の介護保険制度改正の柱である「生産性の向上」に対してDX・ICTの活用等も含め積極的に取組んだ。その中でサービス提供の対象者である利用者の生活環境整備とサービスの質の向上、また、職員同士がお互いを尊重し合える関係性の構築と連携を図るための働きやすい職場環境の整備を築くこと、利用者だけでなく、職員もまたセンターであることを念頭にそれぞれの事業運営を行った。

管理部を中心に各事業間連携の促進、相互支援、5S活動を通じた職場環境整備と利用者が過ごしやすい環境整備を行った。

特養部については目標稼働率達成には至らなかったが、令和6年度の業績を上回り回復の兆しが見えた1年であった。

ショートステイについては、特養の空床を満たすよう積極的に受入れを行い、事業単体では目標を大きく上回ったものの特養との合算稼働率は、目標の96.0%に対し95.9%とわずかに及ばなかった。

デイサービスについては、利用者獲得のため、エリア拡大を図り、渋川市以外からの獲得は一定数あったが十分とは言えず、今後更に積極的な働きが必要と考えている。お試しデイサービスから契約利用となる割合も増加してきたが目標達成には至らなかった。また、年度途中からデイサービスの業績改善のため、永光荘各事業部から代表者の参加を募り経営改善を図るための戦略会議を毎月開催し、幅広い視点で課題と対策について話し合った。すぐに実行可能な環境整備や接遇、利用者処遇対策については着手し一定の効果も得られた。また、抜本的な体制の見直しなど準備を要する対策については、令和8年度事業計画に盛り込んだ。

なお、今年度は特養とショートステイ事業に対し群馬県による運営指導があり、一部書類の整備を口頭で指摘されたものの文書での改善報告はなく、適正な事業運営が確認された。

令和7年度運営方針の取組み結果については、以下のとおりである。

### (1) 財政基盤の安定への取組み

#### ①特養部：ベッド稼働率 93.2% (目標：94.0%)

\*特養部・ショートステイ 合算ベッド稼働率 95.9% (目標：96.0%)

特養部は上期までは94.4%と目標を達成できていたが、10月の新型コロナの蔓延、冬期の退居者増が影響し目標達成には至らなかった。その空床を埋めるべく、目標以上のショートステイ利用者の受入れを行ったが合算ベッド稼働率の目標達成には至らなかった。

#### ②居宅ケア部：

\*ショートステイ 11.0人/日 (目標：10.5人/日)

\*デイサービスセンター 年間5,720人 (目標：6,624人)

ショートステイは、特養と空床状況について綿密に情報共有を図り、目標以上の受入れを達成できた。デイサービスは令和6年度より増加したものの目標を大きく下回る結果となった。取組み状況と今後の対策については前述、各部の報告及び令和8年度事業計画を参照されたい。

## (2) サービスの質の向上を目指す

- ① ICTの活用促進については、ラインワークスはトークルームを細分化することで効率性を図り、業務連絡や研修ツールとして、さらに個別の利用者処遇の向上などサービスの質の向上にも繋がった。また、ほのぼのケアシステムの活用促進のため、業者に訪問やオンラインでのレクチャーを受け、特養部・居宅ケア部とも、より深化したシステム活用が図られるようになった。バイタル機器についても無線対応により業務の効率化を図り、業務負担軽減に繋がった。
- ② 介護ロボットの検討・導入については、眠りスキャンは、看取り期に対する使用が主で更なる活用範囲の拡大までは至らなかった。
- ③ LIFEの活用については、施設の特徴や全国平均との比較はできたが、個別処遇やサービスの質の向上に活用するまでは至らなかった。
- ④ 人材育成と定着については、外部研修への参加が大きく増加し職員のスキルアップやモチベーションアップに繋がった。委員会についても再編を行い職員からの意見を反映した委員会も設け、可能な限り勤務時間内に開催できるよう工夫した。
- ⑤ 利用者の生活環境の整備について、年度当初、浴室の床材の張替えを計画したが、まずは清掃方法をもう一度見直し再考することとした。
- ⑥ 監視カメラの活用について、幸い無断外出や犯罪は発生していないが、職員が直接確認できなかった転倒事故を録画映像により確認でき、事実に基づく家族への説明や具体的で個別性も考慮した再発防止策の作成が可能になった。

## (3) 地域を包括する公益的な取組の推進

再開した永光荘カフェを計画通り開催することができ、毎回20人を超える方が参加した。地域住民だけでなく、利用者との交流も図ることができた。

## 2. 管理部

【年度目標①】 他部署の業務や価値観を理解し互いに尊重し合える関係を構築

(評 価) 感染症の影響に限らず、人員が不足する場面においては部署間での支援を行い、相互に協力する体制づくりに努めた。具体的には、特養部の受診送迎業務の補助、居宅ケア部における積雪時の送迎補助や入浴後の介助、地域包括支援センターからの要請による個人宅の清掃支援などを実施した。これらの支援活動を通じて、各部署の業務内容への理解を深めるとともに、互いに支え合う意識の向上につながったと考える。  
一方で、支援を行うだけでなく、必要時には他部署からも支援を受けられるような相互の協力体制の構築が課題として挙げられる。今後は、部署間の連携をより一層深め、双方向で支え合える関係づくりに努めていく必要がある。

【年度目標②】 5 S活動である「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」を徹底し、職場環境の改善を図ることで、生産性とサービスの質を向上

(評 価) 5 S活動については、職員が日常的に意識を持って取組めるよう、資料の配布等により定期的な呼びかけを行った。また、指導監査やGoogle撮影への対応もあり、共有スペースを中心に整理整頓された環境を維持することができた。  
今後の課題として、職員間において5 S活動への意識に差が見られることから、取組みが個人に依存している点が課題として挙げられる。今後は、全職員が同様の意識を持って業務にあたるよう、継続した周知および職場全体での取組みとして定着を図っていく必要がある。

【年度目標③】 職員および各部署間での報告・連絡・相談を徹底し、迅速かつ正確な情報共有を行うことで、環境整備の維持やサービスの質を向上

(評 価) ラインワークスやインカム等のICTツールを活用し、ルール化されている情報については円滑かつ簡潔に共有できる体制を整備した。また、各会議および委員会の議事録をラインワークス内に保存・閲覧できるよう運用を見直し、必要な情報を速やかに確認できる環境を整えたことで、情報共有の効率化を図ることができた。  
今後は、これらのツールの活用をさらに定着させるとともに、職員間および部署間における報告・連絡・相談の徹底を図り、より迅速かつ正確な情報共有につなげていく必要がある。

### 1) 総務課・用務課

【年度目標①】 フレックスタイム制度を効率的に運用し時間外労働の削減

(評 価) フレックスタイム制度の効率的運用については、時間外労働の多い部署に対して制度活用の働きかけを行い、職員の意識向上を図るとともに、時間外労働の削減につなげることができた。また、特養部相談員に対して令和7年6月より試験的導入を実施し、業務効率化およびワークライフバランスの向上に寄与した。

【年度目標②】総務課業務におけるミスをゼロにするためのチェック体制を確立

(評価) 総務課業務におけるミス削減に向け、業務の振り返りおよび課内協議を継続的に実施し、改善策の検討とデータ蓄積を行ったことにより、チェック体制の強化につなげることができた。

【年度目標③】デマンド上限129kwhを目標とし、適切な電気使用により省エネを推進

(評価) 電気使用量については四半期ごとの確認・分析を実施し、適切な使用状況の把握に努めた。また、室外機の簡易点検および室内機フィルター清掃を計画どおり実施し、空調効率の維持と省エネ意識の向上につながった。デマンド上限129kwhの目標については、概ね適正な範囲で推移しており、継続的な管理体制が構築できた。

2) 職員健康診断等状況

1. 健康診断状況

令和7年 6月 2日～ 7月11日 71人 (全体職員検診)

令和7年12月 1日～12月25日 31人 (夜勤職員検診)

2. インフルエンザ予防接種状況

令和7年11月11日～12月 2日 81人接種

3. ストレスチェック実施状況

令和7年11月24日～30日 68人受検

3) 施設不在者投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 第27回参議院議員通常選挙

令和7年 7月17日 30人投票

2. 渋川市長選挙

令和7年 9月29日 34人投票

3. 第51回衆議院議員総選挙及び第27回最高裁判所裁判官国民審査

令和8年 2月 9日 37人投票

4) 群馬県による運営指導

令和7年 7月 3日 特別養護老人ホーム  
ショートステイ

### 3. 特養部

#### 【年度目標①】 94.0%以上のベッド稼働率を実現する

(評価) 令和7年4月は94.4%でスタートした。4月1日から7日までに6人の退所があり、4月1日の契約者が85人だったが、4月8日時点では契約者79人となった。4月、5月の新規受け入れを5人ずつ行い、その後の新規入居者は1人から4人で受け入れを行っていた。10月、3月には体調不良者が多く、退居にも繋がったと考えられる。5月、7月、8月、9月は単月で94%以上を達成できた。10月のコロナ蔓延による影響が大きく、その後の稼働率が下がる原因になったと考えられる。年度累計93.2%と目標には至らなかった。入居申し込み件数が少なく、待機者が増えない状況にあり、入居検討の余地がない状況が続いている。病院や老人保健施設との連携を取り、入居申し込みに繋げ、入居検討をしていくという流れになっている。今後も引き続き病院や老人保健施設との連携を取り、新規入居へと繋げていく。

#### 【年度目標②】 人材確保と人財育成

(評価) 年間で24件の外部研修に延べ33人が参加することができた。また施設内会議にて内部研修を行い、職員のスキルアップに努めた。外部研修では感染リスクはあったが、敢えて集合研修への参加を促し、他参加者から受ける刺激や、外部に出ることで、身だしなみをはじめとした、接遇を見直す機会とした。9月にパート、アルバイトを含む全職員を対象に個別面談を行い、個々の目標設定や評価・就労中の困りごと等を聞き取ることができた。この面談での各職員の意向を踏まえて、令和8年度の委員会編成をおこない、新人職員をはじめとした、人財育成への提案も得ることができた。

#### 【年度目標③】 チームケアの質の向上

(評価) この10年間、食事・水分・排泄・運動の4大ケアに口腔ケアを加え、重点的に取り組んできた。付表14・15のデータ分析を行った結果、入居者の健康維持・向上に加え、職員のスキルアップやチームとしての成長にも成果が見られ、多職種が連携しながら利用者一人ひとりに寄り添うパーソンセンタードケアの実践につながった。各委員会の会議および活動については、業務時間内に実施できるよう調整を行った。当初6つの委員会から調整に取り組み、年度内には計10の委員会で業務時間内での実施を可能とした。これにより、時間外業務の削減を図るとともに、職員が参加しやすい環境を整備し、モチベーションの向上につなげることができた。また、会議内で業務の見直しを継続的にを行い、意見集約も含め議論することができた。介護職員の業務スキルの幅を広げ、配置を均等化し有給休暇取得や、勤務変更が行いやすい職場環境にすることができた。

#### 【年度目標④】 情報共有の効率化

(評価) 6年度より食事、水分、栄養補助食品、バイタル、処置（褥瘡写真）の入

力を行っており、定着している。集計作業の負担軽減やパソコンやタブレット上でのデータ確認が行えることで情報共有の効率化が来ている。申し送り表を手書きからパソコン入力への変更も7年度より完全に移行できており、定着もしている。いつでもパソコンで確認できることで効率化は格段に進んだ。

眠りSCANに関しては状態悪化（看取り期）の方への使用が多く、睡眠状態や心拍の確認をリアルタイムで行っている。データ活用については、睡眠状態のデータを処遇検討に利用している。インカムについては台数を増やし、バッテリーの交換も行ったことにより、今まで以上に有効活用できている。

## 1) 介護課

【年度目標①】 様々な状態の入居者への適切なケアを提供する

（評価） 年間で36人の新規入居者の受入れを多職種で、連携して幅広くおこなってきた。新しい情報や、更新される処遇の把握においては、紙とラインワークスを併用しているが、職員間で口頭による情報の共有を、意識的に言い周知することができた。特に経験の浅い職員や、外国出身の職員に対しては、理解度の確認も含め、積極的に声掛けをおこなった。

業務での役割分担のなかで、口腔ケアとリハビリは、優先業務として毎日継続させることができている。入居者の健康的な施設生活の維持につながっている。口腔ケアとリハビリを含む複数の業務について、会議や面談を通じて改良点や、活動範囲の拡大等の意見も挙がっているため、令和8年度につなげたい。

【年度目標②】 介護職員（介護補助員含む）の確保と定着

（評価） 業務分担表の見直しを定期的に行い、役割分担を明確にして効率良く業務を進めることができた。見直しの際は、各役割に負担の偏りがないかも話し合い、ブラッシュアップした。

前述の通り9月に面談をおこない、各職員から改善点や提案を得ることができた。これを参考にして、業務改善の話し合いを会議内でおこなっている。また、それぞれの現在の考えや思いを聞かせてもらい、個々のキャリアアップへの助言や、働きやすい職場環境への取組みを、引き続きおこなった。

【年度目標③】 「ほのぼのケアシステム」の活用幅の拡大

（評価） 特養部、【年度目標④】の通り、活用の幅は広がっている。

昨年度は介護現場の生産性向上に関する相談を「介護職務サポートぐんま」に、オンライン相談を行い、NDソフトウェアから訪問サポートを受け、今後の課題や進め方について確認ができた。

## 2) 看護課

【年度目標①】 健康管理と感染症対策の徹底

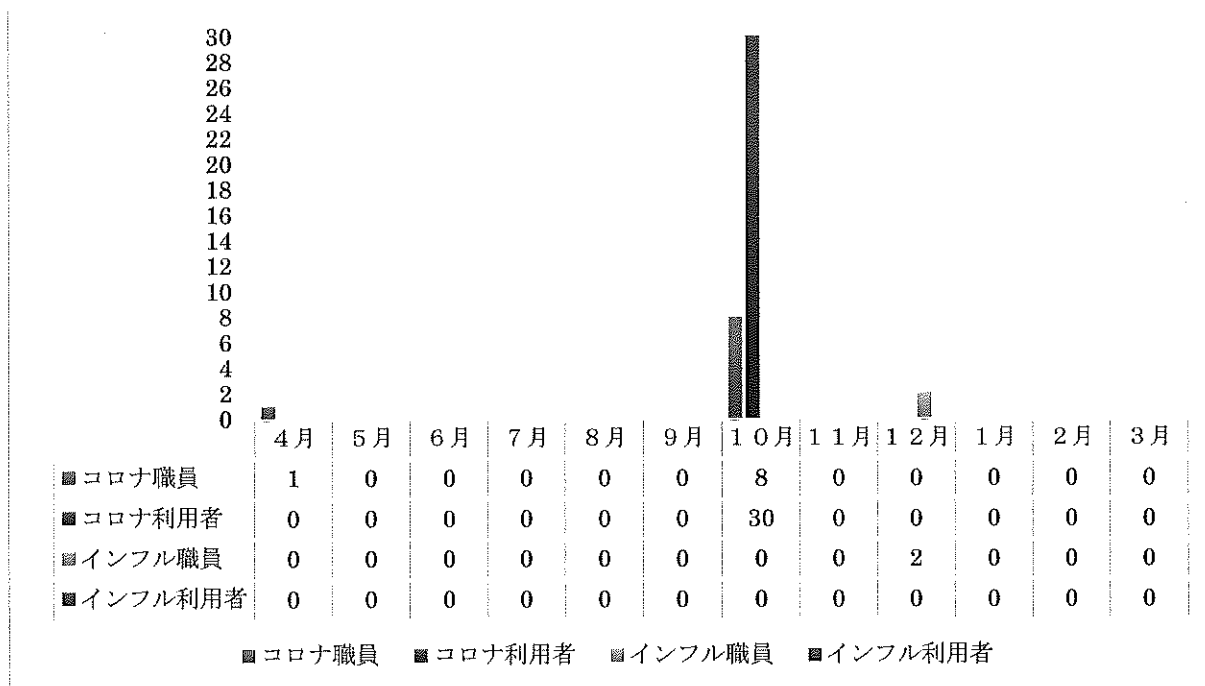
（評価） 入居者の年間延べ入院日数は511日（最大は、平成27年度2087日・昨年、令和6年度545日）となり、過去10年で一番少ない日数となっ

た。後述の看取り対応等により、入院の措置を取らないケースが増えていることもあるが、日頃の健康管理への取組みの成果もあったと考える。

付表15参照。

看護職員の退職が6月・8月と続き、その後の職員補充も上手くいかずに厳しい勤務状態が続いていたが、介護職員を1人、看護助手のような役割として配置し対応した。年末から看護職員の補充に恵まれ改善傾向にある。10月にコロナの施設内感染があり感染を拡大してしまったが、嘱託医の指示のもと感染の収束に努めた。

令和7年度 永光荘特養部感染症感染状況 (人)



**【年度目標②】 看取り等重介護者の対応**

(評 価) 日頃の健康観察と嘱託医の指示のもと、施設内での看護対応と受診対応を速やかにおこなった。看取り対応においては、多職種で連携を図り、対象者にとって無理のない生活が、送れるように協議し対応を実施した。喀痰吸引研修や外部研修の参加は、看護職員の不足により実行できなかった。

**【年度目標③】 ICT機器の活用の習慣化**

(評 価) 特養部、【年度目標④】の通り、習慣化できている。ノートパソコン、タブレット、無線対応のバイタル機器、インカム等の活用ができている。

**3) 栄養課**

**【年度目標①】 入居者のQOL向上のための栄養面での支援**

(評 価) 持病から食事での制限がある入居者への説明の際に、危険性をそのまま伝えるのではなく、不安を感じさせないように話し方を工夫した。また、塩

分制限のある入居者に対し、注意点をカードに記載して適正な食事が配膳できるようにした。

食に関心の高い入居者が増えており、聞き取りを行いそれぞれの好みをメニューに反映させるよう努めた。特に行事食は入居者から好評を頂けている。

7月の群馬県運営指導で頂いたアドバイスを参考に栄養ケアマネジメントへの取組みを強化させた。

**【年度目標②】 災害・感染症BCPに対する備えを整備し、発生時迅速に対応**

(評価) 関係業者と常時連携し、食材を無駄にしないようローリングストックを実施しながら備品を管理することができた。また、必要物品の在庫も把握しコロナが、施設内に蔓延した10月には速やかに対応した。

**【年度目標③】 衛生管理の徹底（食中毒・感染症予防）**

(評価) 衛生管理記録簿や、検収記録簿は委託業者の衛生管理マニュアルにのっとり記録を継続させた。感染予防としては委託業者と施設の両面から予防に努めている。

#### 4) リスクマネジメント

月に1回リスクマネジメント会議を開催し、ヒヤリハット報告書・事故報告書をもとに再発防止策の検討と振り返りを行った。また、センサー使用者へのモニタリングや居室環境について話し合う場とした。

転倒リスクの高い入居者が続いた際は、職員の手薄になる夜間帯の排泄表を一時的に変更し、安全確保を優先した。

『永光会事故の日』には、抜き打ちで行方不明者捜索訓練を行い、現状での課題も得ることができた。

#### 5) オンブズマン報告

入居者の要望の聞き取り及び苦情解決システムの一環としてNPO法人「はあとらんど」にオンブズマンを依頼し処遇改善につなげた。オンブズマンとしての知識と経験から気づいた点を巡回終了後に伺い話し合い、後日書面で報告を受け、各部署で内容確認し検討・解決を図った。

## 4. 居宅ケア部

### 【年度目標①】月の登録者数90人以上を目指す

- (評 価) 4月は81人でのスタートとなり10月には87人まで確保出来たが、年度末の3月は83人の結果となった。新規契約者人数より終了者人数が多かったため伸びなかった。要支援に関しては目標以上の受け入れが出来た。
- ①利用者、家族、ケアマネジャーの信頼を損なわないため定期的に接遇の確認と情報の共有を図った。
  - ②利用者を中心としたサービス提供を日々考えるため、職員同士の価値観を出し合うことを重視した。結果、施設方針であるパーソンセンタードケアの「共感と受容」に繋がっている事を実感した。

### 【年度目標②】業務効率化を図り、時間の有効活用

- (評 価) 各課での情報共有は滞りなく行えた。他の課への共有は難しいがタブレットにて各々が確認出来るため効率があがった。記録物が減った事で時間に余裕がもて、慌ただしい雰囲気を感じなくなった。タブレット使用にあたり記録物の削減と時間が効率的になった。
- ①活動係を中心にレクリエーション等を行った結果、内容の充実につながった。
  - ②職員それぞれの価値観を理解することで、多くの意見からチャレンジする前向きな姿勢が見られた。

### 【年度目標③】係、委員会の役割の明確化

- (評 価) 今年度新たに活動係りを設けた事により余暇やイベントを企画でき計画的に実行できた。利用者の満足度へ繋がっていると実感している。支援係りは基本に戻り個別の処遇に取り組んだ。

### 【年度目標④】感染症対策・対応の徹底

- (評 価) 状態観察から報告・相談対応がスムーズに行えた。感染症蔓延の不安から対応が過敏になり過ぎだが、落ち着いて対処でき、大きな蔓延はなく過ごせた。

## 1) ショートステイ

### 【年度目標①】ベッド稼働率117% (1日10.5人)

- (評 価) ベッド稼働率123.1% (1日11.0人)  
定期利用者と長期利用者のキャンセルが生じた際に稼働率が低迷したが登録者数の確保から大きな影響は出なかった。

### 【年度目標②】感染症対策の徹底と、発生時の対応確認・拡大防止

- (評 価) 職員間では小さな体調変化を報告する習慣が定着し、観察と対応の連携が図れてきている。しかし、体調不良発生時にご家族と連絡が取れない事があるため緊急連絡の確保が今後の課題。

### 【年度目標③】安心して過ごせる環境の整備

(評 価) 自宅環境との違いに戸惑う方が多い中で特に夜間は安心して休める様ベッド周囲を整えて来た。自立度の高い方のこだわり対応と個室希望者が多い傾向のため居室配置には苦戦した。

## 2) デイサービス

【年度目標①】年間延べ利用者数6,624人

(評 価) 年間延べ利用者数は5,720人。達成率は86.0%にとどまり目標を下回った。新規利用者は年間26人。月平均で2.3人であった。渋川市地区以外から新規利用者5人獲得できた。今後も広報活動を継続していきたい。お試し利用からの契約やサービス利用中の回数を増やす利用者もいて現場職員の対応も良化してきていることを実感できた。また、レクリエーションやおやつ作りなどの時間を設け意欲向上に努めた。年度末にかけて新規利用者も増えてきている。「満足度」を上げる取組みを継続する。

【年度目標②】「リハビリ」「運動」のできるデイサービスの継続と利用者が自己実現できるようなサービスの提供

(評 価) 「リハビリ」「運動」は各職員が役割分担をして実施できた。また、レクリエーションを月に1~2回取り入れ楽しみながら行う様子が伺えた。「塗り絵」は作品を掲示板に展示することで利用者の意欲向上につながった。クリスマス会ではボランティアによる、大正琴演奏やゲーム大会で大いに盛り上がった。また、利用者の趣味や嗜好に即したレクリエーション材料の提供し利用者自身が自分の時間を楽しむことができた。

【年度目標③】「サービスの質の向上」

(評 価) 介護技術・知識の向上のために外部研修として、6月に「移送サービス運転講習会」7~8月にかけて「実習指導者研修」に参加。内部研修として6月「排泄ケア」7月、11月「身体拘束、虐待」9月「入浴」12月「感染症」2月「食事」などを実施した。タブレットのデータ入力各職員が操作できるようになり、ケア記録をデータ化することでパソコン上での情報共有することができるようになった。なお、LIFEのフィードバックについては毎月の更新入力を継続し、フィードバックを受けることができた。2月から現在まで、清流の郷より移乗サポートロボ Hug を借り、対象となる利用者を精査し使用した。職員の介護負担及び利用者への身体的負担の軽減に繋がっている。

## 3) 看護課

【年度目標①】介護課と連携・協働し、利用者の健康維持を保つとともに体力、筋力アップへの向上支援策を図る

(評 価) 個別リハビリメニューを作成し、実施する時間帯も午前から午後へ変更した事で介護、看護への偏りがなくなり余裕をもって取組む事が出来た。

【年度目標②】健康管理と感染予防策の中心的な役割となり、安心して安全にご利用して頂ける環境を作る

(評 価) 世間でインフルエンザ・コロナの流行はみられたが利用者の日々からの状態変化で早期対応が図れたため、蔓延する事なく過ごせた。

## 5. 付表

表1 施設整備等実施状況

項目	内容	金額	購入日・実施日
施設備品等 導入	全体 防犯カメラ	リース	令和7年 4月～
	特養 発電機	111,980円	令和7年 5月 8日
	全体 Googleストリートビュー	—	令和8年 9月～
	特養 冷凍庫	167,200円	令和7年 9月 29日
	特養 立体炊飯器	647,900円	令和7年 9月 29日
	特養 電動ベッド3台	914,100円	令和8年 3月 4日
施設備品等 修理	特養 温冷配膳車修理	188,650円	令和7年 4月 18日
	特養 ろ過ポンプオーバーホール	114,400円	令和7年 8月 14日
	特養 屋上防水部分改修	113,300円	令和7年 8月 19日
	特養 エアコン清掃	118,800円	令和7年 8月 29日
	特養 食堂トイレ便器交換	308,000円	令和8年 3月 25日
施設設備点検	全体 消防用設備保守点検	159,940円	令和7年 7月 17日
	全体 特殊建築物定期調査	110,000円	令和7年 7月 17日
	全体 自家発電設備負荷運転試験	159,500円	令和7年 7月 18日

表2 職員の配置状況

令和8年3月31日現在

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢	勤続	人数	年齢	勤続
(常勤) 施設長	1	54	33	(1)		
(常勤) 事務員	4	37	9	(4)		
(常勤) 生活相談員	2	43	14	1(4)	56	17
(常勤) 介護支援専門員	1	64	23			
(常勤) 介護職員	31	35	9	8	46	16
(非常勤) 介護職員	10	44	6	1	40	6
(常勤) 看護職員	4	55	10	2	50	5
(非常勤) 看護職員	3	68	12	3	56	3
(常勤) 機能訓練指導員	(1)			(2)		
(非常勤) 機能訓練指導員				(3)		
(常勤) 管理栄養士	1	29	5	(1)		
(非常勤) 医師	(5)					
(常勤) 用務職員	2	64	20	(2)		
(非常勤) 用務職員	2	71	1	(2)		
(常勤) 合計	46	39	10	11	47	13
(非常勤) 合計	15	53	6	4	52	3

※( ) は兼務

- ・デイサービスの生活相談員3人は介護職員が兼務
- ・永光荘・デイサービスの機能訓練指導員は看護職員が兼務
- ・兼務者は合計から除外 年齢、勤続の合計は平均

表3 職員の資格取得状況

令和8年3月31日現在

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	認定特定行為業務(喀痰吸引)従事者	介護職員初任者研修	認知症介護実践者研修	防火管理者	衛生責任者	危険物取扱者
施設長	1	1								1		
特養												
生活相談員	1	1								1		
介護支援専門員	1	1					1					
介護職員	24	1				1	11	2	1	1		
看護職員			3	4								
栄養士					1							
事務職員											1	1
用務職員												
ショートステイ												
生活相談員	1								1			
介護職員	3						1	1	2			
デイサービス												
生活相談員	1	1										
介護職員	8	1					2		3	2		
看護職員			2	3								
合計	40	6	5	7	1	1	15	3	7	5	1	1
前年度合計	43	5	5	7	1	1	13	3	7	5	1	1

- ・重複資格取得者あり。 非常勤職員含む。
- ・( ) は資格者所有者数のうち令和6年度試験合格者数を示す。

表4 施設外研修と会議

出席件数(延べ人数)

職種	部会・定例会・会議	一般研修	県外研修
施設長	4 ( 4)	15 (15)	0 ( 0)
特養相談員	0 ( 0)	14 (14)	0 ( 0)
特養介護支援専門員	0 ( 0)	5 ( 5)	0 ( 0)
特養介護職	0 ( 0)	17 (31)	2 ( 2)
特養看護職	0 ( 0)	1 ( 1)	0 ( 0)
特養栄養職	0 ( 0)	1 ( 1)	0 ( 0)
特養事務職	5 ( 5)	24 (25)	2 ( 2)
居宅ケア相談員	0 ( 0)	11 (11)	0 ( 0)
居宅ケア介護職	0 ( 0)	11 (12)	0 ( 0)
居宅ケア看護職	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)

表5 特養部 外部研修参加状況

研修名	形式	参加人数	研修期間
福祉職員キャリアパス (初任者)	会場	4	B日程令和7年 7月25日 8月1日 C日程令和7年 8月22日 8月29日
福祉職員キャリアパス (中堅)	会場	4	A日程令和7年 5月30日 6月6日 B日程令和7年 7月8日 7月15日
福祉職員キャリアパス (チームリーダー)	会場	2	B日程令和7年 9月11日 12日
関東ブロック老人福祉施設 研究総会	会場	1	令和7年 6月12日 13日
高齢者施設等の感染対策研修 フォローアップ研修	Web	1	令和7年 6月27日
認知症介護基礎研修	eラーニン グ	1	令和7年 6月30日
介護職場サポートセンター ぐんま開所式兼記念セミナー	会場	1	令和7年 7月7日
災害対策研究会	会場	1	令和7年 7月15日
第2回介護テクノロジー導入セ ミナー	会場	1	令和7年 9月12日
介護老人福祉施設と渋川地域S Wとの情報交換会	Web	1	令和7年 9月19日
中堅職員OJT研修	会場	2	令和7年 9月16日 10月30日
生活相談員のための初歩的なICT 化の実践に向けて	会場	1	令和7年 9月26日
科学的介護情報システム(LIFE) 説明会	Web	1	令和7年12月4日
明日にでも算定できる！わかり やすい加算算定のためのスキル	会場	2	令和7年12月9日
渋川地域SW連絡協議会 研修会	Web	1	令和7年12月12日
第2回災害対策研修会	会場	1	令和8年 1月23日
認知症ケアとリハビリテーショ ン	Web	1	令和8年 2月8日
特養におけるカスハラ対策につ いて	会場	2	令和8年 2月13日
第2回生活相談員研究部会 全体研修会	会場	1	令和8年 2月27日
介護現場における生産性向上推 進フォーラム	Web	1	令和8年 3月2日
福祉人材確保・定着支援セミナー	Web	1	令和8年 3月5日
レジオネラ症防止対策講演会	会場	2	令和8年 3月16日

表6 居宅ケア部 研修参加状況

内容	月	施設外研修	施設内研修
移送サービス運転講習会	6月	2人	
実習指導研修	7月～8月	1人	
排泄ケア研修	6月		9人
身体拘束研修	7月・11月		15人
入浴研修	9月		6人

表7 会議及び委員会の実施状況

会議名	実施回数	平均出席	参加者	会議の内容
部長会議	12	6	施設長、(事務長) 各部 部長	各部門懸案事項の検討 方針決定、月次収支報告
課長会議	12	11	施設長、(事務長) 各部 部長・副部长・課長	各課懸案事項の審議 方針の徹底
衛生委員会	12	12	産業医、衛生管理者、施設長 各部 部長・副部长・課長	施設の安全衛生に関する こと
防災委員会	9	7	施設長、防火管理者、委員	施設防災計画、訓練、安全 管理の企画点検など
生産性向上委員会	4	11	施設長、(事務長) 各部 部長・副部长・課長	介護サービスの質の向上 を目指すためのテクノロジーの導入・評価
食支援委員会	11	9	施設長、特養部部長、委員 管理栄養士、給食業者	給食に関する事項審議 行事食、処遇改善策
行事委員会	10	4	施設長、委員	行事の企画、反省
感染症対策委員会	12	11	施設長、(事務長) 各部 部長・副部长・課長	感染症対策の検討など
虐待防止委員会	12	12	施設長、(事務長) 各部 部長・副部长・課長 施設ケアマネ	虐待に関する懸案事項等 の確認及び検討など
入所等検討委員会	12	13	評議員、施設長、(事務長) 各部 部長・副部长・課長 施設ケアマネ	入所待機者の動向確認と グループ分けその他入所 決定についての総合的な 検討
永光荘しんぶん 委員会	4	5	委員	永光荘しんぶんの企画検 討編集、反省

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

表8 特養部 会議、委員会実施状況

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
特養部 全体会議	10回	15人	施設長、生活相談員 施設ケアマネ 介護職員、看護職員 管理栄養士	
サービス 担当者会議	12回	7人	施設長、生活相談員 施設ケアマネ 介護職員、看護職員 管理栄養士	利用者ケアプランにおけるサービス内容の検討、状況確認、モニタリングなど
リスクマネジ メント 委員会	12回	7人	施設長、生活相談員 施設ケアマネ 介護職員、看護職員 管理栄養士	リスクマネジメント作業委員会における現場でのリスクを報告。事故発生及び事故再発予防策の検討など
リスクマネジ メント 作業委員会	10回	2人	介護職員	事故分析、環境整備、センサー使用状況の把握、マニュアル見直し、職員教育
感染症予防対 策委員会	10回	8人	施設長、生活相談員 介護職員、看護職員 管理栄養士 委託業者社員	コロナを主とした感染症対策の検討及び発生時の対処方法の統一、感染症蔓延時におけるBCPの検討・周知など
身体拘束 適正化 委員会	12回	7人	施設長、生活相談員 施設ケアマネ 介護職員、看護職員 管理栄養士	身体拘束に対して、緊急やむを得ず実施する場合の留意点及び拘束解除に向けた検討の実施など

表9 特養部 各委員会活動報告

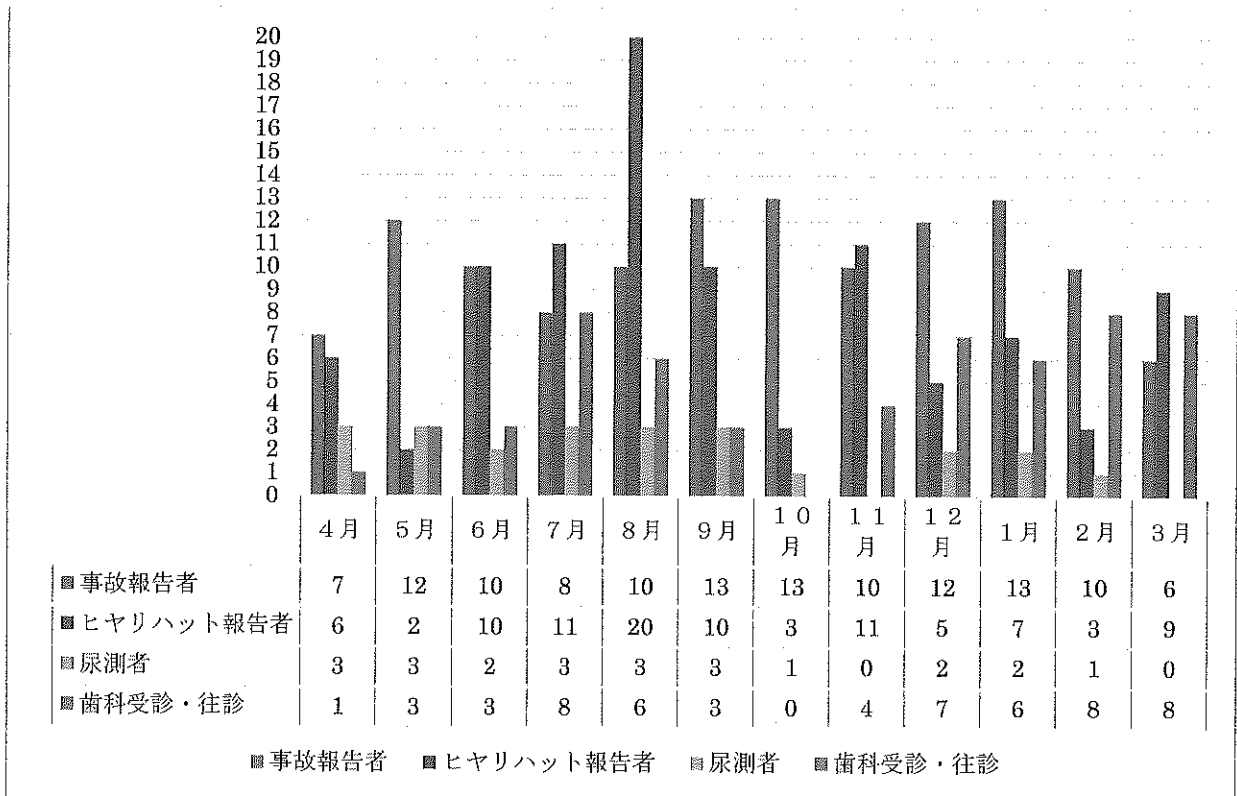


表10 居宅ケア部 会議実施状況一覧

会議名	年間実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
全体会議	10回	10人	施設長、介護課長 看護係長、看護職員 介護係長、介護職員	懸案事項審議、勉強会の開催、感染症対策の周知・徹底、業務等の報告、身体拘束虐待防止研修等 8月・10月は出席率が低いため中止
係長会議	12回	6人	施設長、介護課長 看護係長、介護係長	サービス内容の検討や実施状況の確認・委員会のとりまとめや感染症対策の検討等
事故防止委員会	12回	6人	施設長、介護課長 看護係長、介護係長	事故分析、再発防止策の検討、環境整備など
リハビリ委員会	12回	6人	施設長、介護課長 看護係長、介護係長	リハビリ実施状況の確認・個別機能訓練の取組内容の整備・管理全般など
ADL委員会	12回	6人	施設長、介護課長 看護係長、介護係長	個別処遇のとりまとめやサービス内容の実施状況の確認・管理など

表11 特養部 実習受入状況

実習校名	人数	受入期間
群馬パース大学福祉専門学校	4	令和7年 6月 3日～ 6月29日
	4	令和7年 9月 9日～10月19日
	1	令和7年12月17日～12月19日
	4	令和8年 1月27日～ 2月13日
吾妻中央高等学校	4	令和7年 6月 5日～ 7月17日
	4	令和7年 7月28日～ 8月 1日
	3	令和7年 9月 4日～12月11日
	1	令和7年12月15日～12月19日
	2	令和8年 1月15日～ 3月19日
	2	令和8年 3月25日～ 3月27日
群馬社会福祉専門学校	2	令和7年 4月21日～ 4月24日

表12 居宅ケア部 実習受入状況

実習校名	人数	受入期間
群馬パース大学福祉専門学校	4	令和7年 7月 1日～ 7月 4日
	3	令和7年 7月 8日～ 7月11日
	4	令和7年 7月24日～ 7月25日
	3	令和7年 7月24日～ 7月25日
	1	令和7年12月 1日、8日、15日
	1	令和7年12月22日～12月24日

表13 特養部 入退居者状況

( ) は前年度人数

	入居者数	退居者数
男	6人 (10)	5人 (13)
女	30人 (29)	30人 (25)
合計	36人 (39)	35人 (38)

表14 特養部 退居者状況内訳

( ) は前年度人数

	死亡(看取)	死亡(病院)	他施設	医療機関
男	4人 (10)	0人 (4)	1人 (1)	0人 (2)
女	24人 (18)	4人 (3)	1人 (0)	1人 (0)
合計	28人 (28)	4人 (7)	2人 (1)	1人 (2)

表15 特養部 ベッド稼働率

(月別推移 単位: %)

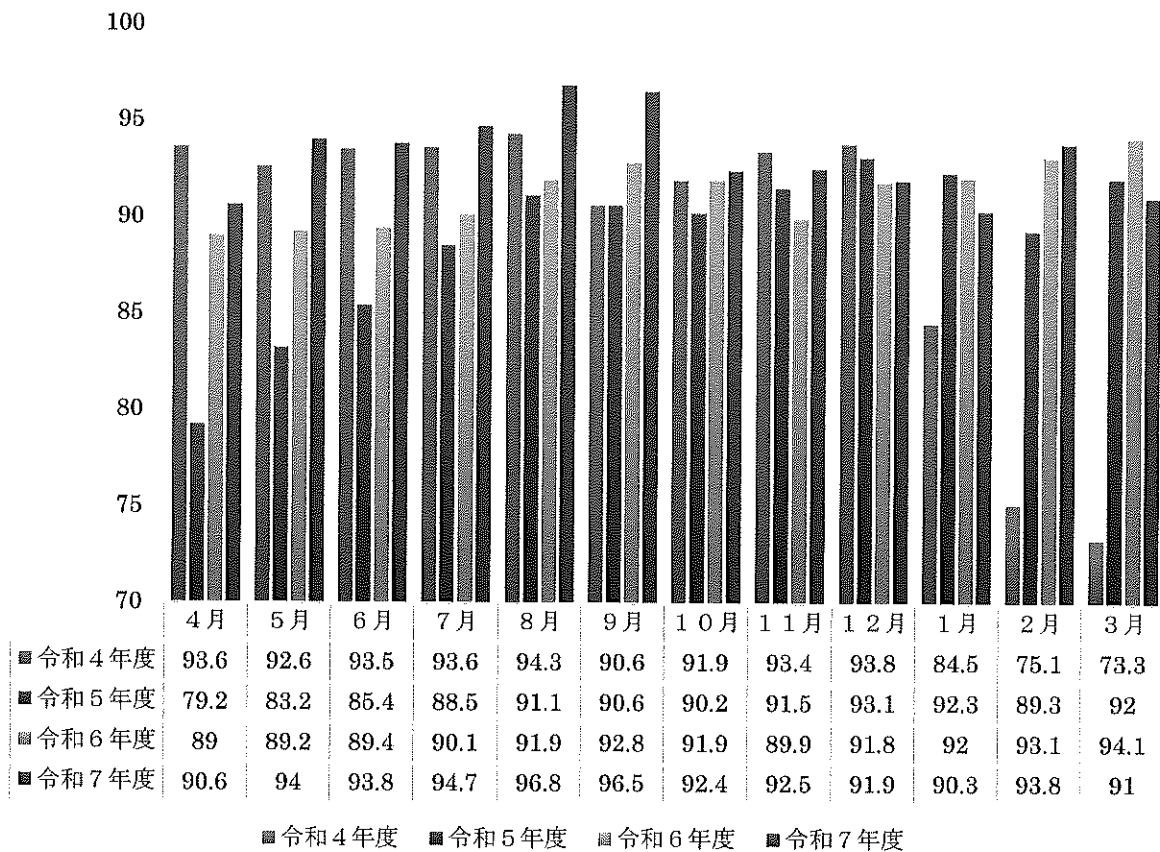


表16 ベッド稼働率の推移

稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	90.6	94.0	93.8	94.7	96.8	96.5	92.4	92.5	91.9	90.3	93.8	91.0	93.2
退・入所者(人)	7   5	1   5	3   1	0   3	2   1	2   2	7   3	1   4	3   2	2   3	2   4	5   3	35   36
R6	89.0	89.2	89.4	90.1	91.9	92.8	91.9	89.9	91.8	92.0	93.1	94.1	91.3
退・入所者(人)	5   3	4   3	3   5	4   3	2   5	4   4	3   3	3   3	3   4	2   2	2   2	3   2	38   39
R5	79.2	83.2	85.4	88.5	91.1	90.6	90.2	91.5	93.1	92.3	89.3	92.0	88.9
退・入所者(人)	2   7	4   6	0   3	3   6	3   5	4   4	2   4	6   3	2   4	4   3	3   1	3   4	36   50
R4	93.6	92.6	93.5	93.6	94.3	90.6	91.9	93.4	93.8	84.5	75.1	73.3	89.3
退・入所者(人)	0   1	4   2	2   3	1   2	2   2	5   3	4   4	1   4	1   0	17   0	5   3	4   5	46   29
R3	93.1	93.0	94.0	94.4	91.5	93.7	93.3	93.8	94.1	92.0	95.0	93.4	93.4
退・入所者(人)	3   2	4   3	0   3	2   2	2   2	5   2	2   5	5   2	3   3	4   4	3   3	2   3	35   34
R2	94.0	94.6	96.3	96.1	95.6	95.0	94.8	92.9	93.4	94.8	94.6	93.8	94.7
退・入所者(人)	1   2	2   3	1   1	1   1	4   2	1   3	3   0	0   2	1   1	2   1	0   1	2   1	18   18
R1	94.5	91.4	93.7	95.6	94.7	94.4	93.8	93.3	95.7	93.1	93.6	94.6	94.0
退・入所者(人)	2   1	2   2	2   2	0   2	1   0	2   1	3   0	1   6	3   1	1   2	3   3	1   1	21   21
H30	96.7	97.5	95.6	94.7	93.8	95.5	97.2	93.4	94.4	94.2	92.6	93.2	94.9
退・入所者(人)	2   2	1   1	2   0	0   1	1   2	3   1	1   2	3   1	0   3	5   1	2   2	2   4	22   20
H29	92.8	91.1	94.6	95.4	96.5	96.3	96.5	92.4	92.4	93.9	96.6	93.0	94.2
退・入所者(人)	3   2	3   4	2   3	1   1	2   2	3   2	1   2	3   0	1   4	2   3	2   0	2   3	25   26
H28	93.1	92.8	94.9	95.8	93.8	93.6	93.7	93.1	92.5	93.7	95.1	93.0	93.7
退・入所者(人)	3   3	5   5	3   2	1   2	2   2	4   3	4   5	3   4	2   2	7   4	3   4	3   3	40   39
H27	94.6	92.2	94.0	95.7	92.3	92.1	93.8	93.5	95.0	91.8	91.6	93.1	93.3
退・入所者(人)	2   3	2   2	2   4	1   1	3   2	3   3	2   2	5   5	1   2	4   4	4   3	3   4	32   35

※赤文字…先月よりマイナス2%

※黄色…コロナ蔓延時

表17 入院延べ日数

入院者(日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	0	0	41	8	17	23	46	21	90	115	79	71	511
最高人数(人)	0	0	3	1	1	2	3	3	4(1日間)	6(1日間)	4(8日間)	4	最高6人
R6	15	34	7	15	5	18	130	91	98	74	56	2	545
最高人数(人)	1	2	1	2	1	2	6(15日間)	5	6(2日間)	3	3	1	最高6人
R5	14	32	50	56	72	116	111	98	42	80	56	29	756
最高人数(人)	1	2	2	4	3	6(8日間)	4	4	2	5(6日間)	3	2	最高5人
R4	105	114	58	96	92	114	86	74	120	153	83	42	1,137
最高人数(人)	6(4日間)	5	4	4	5	4	4	3	5	6(3日間)	4	2	最高6人
R3	100	96	99	141	162	53	55	50	98	50	28	56	988
最高人数(人)	5	6	7(2日間)	3	4	3	5	6	7(2日間)	3	4	3	最高7人
R2	85	88	52	39	74	95	79	116	124	77	79	134	1,042
最高人数(人)	4	3	3	5(4日間)	5(8日間)	3	4	3	3	5(4日間)	5(8日間)	3	最高7人
R1	73	88	80	77	134	46	58	80	62	3	30	41	772
最高人数(人)	4(6日間)	4(4日間)	3	3	3	1	4(6日間)	4(4日間)	3	3	3	1	最高4人
H30	63	57	72	95	139	39	33	130	128	60	76	137	1,029
最高人数(人)	6(2日間)	3	6(1日間)	2	6	5	6(2日間)	3	6(1日間)	2	6	5	最高7人
H29	142	202	140	112	72	105	88	197	186	147	86	194	1,671
最高人数(人)	6	7	4	3	8	5	6	7	4	3	8	5	最高9人
H28	160	136	118	128	155	196	122	185	248	131	84	196	1,859
最高人数(人)	8(7日間)	5	7	5	11(2日間)	5	8(7日間)	5	7	5	11(2日間)	5	最高11人
H27	121	173	156	151	206	223	199	135	140	232	212	139	2,087
最高人数(人)	5	7	8	8	6	9	5	7	8	8	6	9	最高10人

・赤文字…年間ごとの最大入院者の人数部分

・○人←1日当たりの最大人数

・(○日間)←最大人数が何日間続いたか

表18 ショートステイ 新規利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7年度	3	2	3	2	2	8	5	7	5	1	4	5	47
R6年度	4	1	6	4	4	9	2	4	3	6	1	5	49
R5年度	0	3	2	3	3	1	1	3	2	3	3	1	25

表19 ショートステイ 月別実利用者

(単位：人)

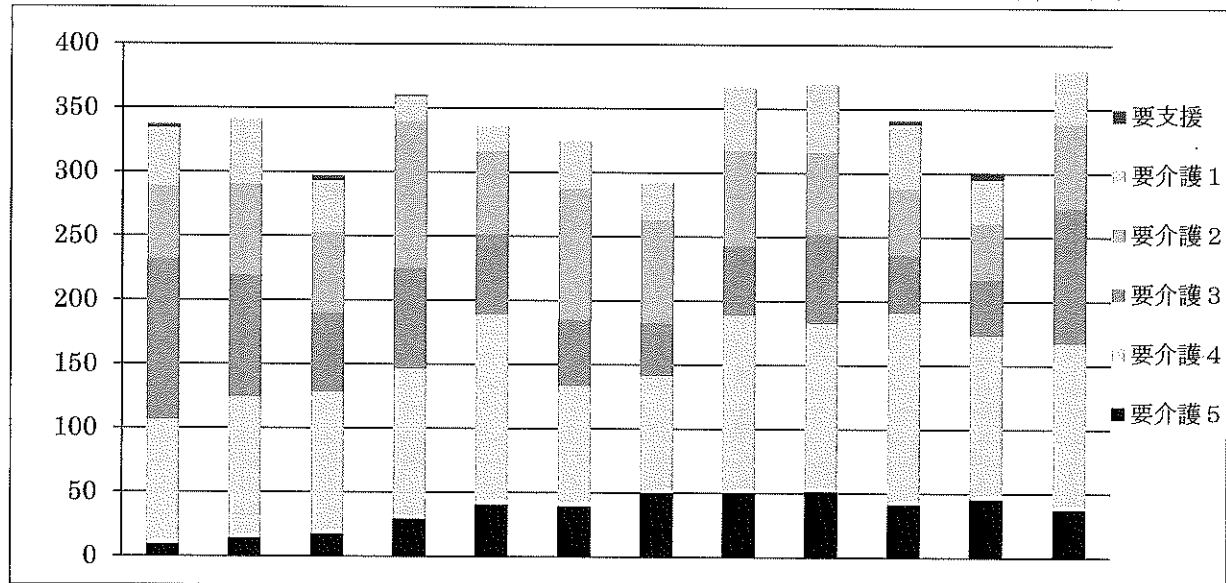
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7年度	31	32	28	34	31	31	38	33	41	33	32	31	395
R6年度	23	30	26	31	30	32	31	32	28	31	26	28	348
R5年度	28	27	28	29	29	23	25	27	27	27	27	25	322

表20 ショートステイ 月間実利用者人数平均値及び延べ利用者数

年度	平均値	延べ利用者数
令和7年度	33.00人	4,045人
令和6年度	27.58人	4,058人
令和5年度	24.88人	3,733人

表21 ショートステイ 延べ利用者数推移

(単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	3	0	4	1	0	0	0	0	0	3	5	0	16
要介護1	45	51	40	20	20	38	29	50	53	50	34	42	472
要介護2	57	71	63	114	64	102	81	74	64	52	44	65	851
要介護3	126	95	62	79	63	52	41	54	70	45	44	106	837
要介護4	97	110	111	117	149	94	91	139	131	150	128	130	1,447
要介護5	9	14	17	29	40	39	50	50	51	41	45	37	422
合計	337	341	297	360	336	325	292	367	369	341	300	380	4,045

表 2 2 デイサービス 新規利用者数 (介護・予防計) (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7年度	0	1	3	0	1	2	4	4	5	0	4	4	28
R6年度	4	1	4	1	1	6	6	3	3	6	9	2	46
R5年度	2	3	1	5	1	2	9	5	1	1	2	2	34

表 2 3 予防通所延べ利用者数

延べ利用者数	令和7年度	令和6年度
要支援1	304人	204人
要支援2	613人	691人
合計	917人	895人

表 2 4 予防通所介護月別実利用者数 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	4	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	43
要支援2	7	7	8	6	6	6	4	5	7	6	6	5	73
合計	11	10	11	9	9	9	8	9	11	10	10	9	116
令和6年度	8	8	9	8	8	8	9	9	8	8	11	12	106

表 2 5 通所介護延べ実績数 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	169	175	181	205	176	179	197	163	177	173	161	187	2,143
要介護2	136	149	158	172	183	199	194	179	158	147	161	171	2,007
要介護3	67	71	76	84	90	101	81	90	125	114	88	93	1,080
要介護4	49	39	39	37	30	34	26	16	16	13	12	13	324
要介護5	9	15	14	15	13	12	11	16	15	19	16	11	166
合計	430	449	468	513	492	525	509	464	491	466	438	475	5,720
令和6年度	443	423	418	423	432	458	487	432	431	419	466	483	5,315

表 2 6 利用者総実績数<介護(延)総利用者数>

	目標利用者数	実績利用者数
令和7年度	6,624人	5,720人
令和6年度	6,258人	5,315人
令和5年度	6,960人	5,749人

## 6. 行事報告

表27 年間行事

実施日	行事名	内容
3月 下旬 4月 月上旬	花見	お花見を実施し、飲み物の提供。
5月10日	お茶会	渋川女子高等学校茶道部によるお茶会の実施。
8月31日	納涼会	小野上太鼓保存会に来荘して頂き、慰問の実施。
9月20日	敬老会	渋川女子高等学校茶道部に来荘して頂き、お茶会実施と慶祝状贈呈式の実施。
12月14日	クリスマス会	園児の合唱等の映像鑑賞とプレゼント交換の実施。
12月28日	餅つき	利用者と一緒に鏡餅作りを実施。
1月 1日	新年の挨拶	新年の挨拶をし、正月らしい食事の提供の実施。
2月 3日	節分	豆まきと干支対象者の集合写真の実施。

表28 定例行事

実施日	定例行事	内容
12回	誕生会	毎月1日に祝い食（お赤飯）の提供。
8月14日 9月22日 3月17日	お盆供養 秋の彼岸回向 春の彼岸回向	真光寺の副住職を招き、実施。

令和 7年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム清流の郷  
管理部  
特養部  
デイサービス部

## もくじ

1. はじめに (総括)	.....	1
2. 管理部	.....	3
1) 運営指導受審状況等	.....	4
3. 特養部	.....	5
1) 介護課	.....	6
2) 看護課	.....	6
3) 栄養調理課 (給食状況)	.....	7
4. ショートステイ	.....	9
5. デイサービス部	.....	11
○日常生活支援総合事業	.....	11
○介護保険事業	.....	12
1) 介護係	.....	12
2) 看護係	.....	13
6. 付表		
管理部	(表-1) ~ (表-5)	..... 14
特養部	(表-6) ~ (表-16)	..... 17
ショートステイ	(表-16) ~ (表-18)	..... 20
デイサービス	(表-19) ~ (表-22)	..... 21

## 1. はじめに（総括）

令和7年度の施設方針は前年度と同じく「介護現場に革命を起こそう！」として、一年間運営を行った。これは令和6年度の介護保険制度改正で、それまで介護現場にはあまり浸透していなかった「生産性向上」が求められ、そしてその主な方法として「介護テクノロジー」の活用が推奨されたことから、介護現場の革命的な出来事だと捉えたが令和6年度の一年間では成し遂げられなかったため、令和7年度も同じ方針とした。この二年で大きな革命までは起こせなかったが、今までとは違う新しい介護へのスタートは切れたのではないかと考える。

そのひとつである介護テクノロジーは、「インカム」「介護ソフト連動タブレット」「Hug（移乗サポートロボット）」「眠りSCAN」「LOVOT（コミュニケーションロボット）」等を活用し、人が関わってきた介護や業務の一部をロボットや機器に委ねることで生産性を向上させ、また安全性や快適さも向上できたと考える。しかし、導入したテクノロジーの能力を最大限活用しきれていないとは言えず、また今後のAIやロボット技術の進歩に対応していかなければならないため、令和8年度以降も介護テクノロジーの最大限の活用は重要課題になると思われる。テクノロジーが発達すればするほど、人として介護にどう向き合うかも重要視されるのではないだろうか。

今年度の大きな事業のひとつとして、機械浴更新があげられる。それまで特養の機械浴は1階「あかぎの湯」を使用していたが、これも生産性向上の一環として、使用していない2階「はるなの湯」に機械浴を導入した。浴室までの導線が短くなり、特養入居者の快適性とともに入居者の負担軽減につながっている。

入居者・利用者状況であるが、まず特養の稼働率は目標96.5%に対し97.3%と0.8ポイント、ショートステイの稼働率も目標75%に対し、75.4%と0.4ポイント上回った。デイサービスは目標年間延べ利用者数7,675人に対し、8,270人となり、結果として3事業所全てが目標を達成した。これは、各担当職員の努力の成果が大きいが、それとともにコロナ禍が明けたことが要因のひとつと考える。現在も施設内では感染対策は以前と変わらず強化中であるが、世間的にはコロナ発生前に限りなく近づいており、集団活動参加への意識が戻りつつある。目標が達成した要因については各部に詳細を記載しているので参照していただきたい。特養入居待機者減少や居宅サービス利用者獲得競争等を考えると、この結果に満足することなく来年度以降も目標達成のために尽力しなければならない。

感染症はこの一年大きな発生はなく、入居者・利用者の健康や生命を守ることができた。大きな感染症拡大を防ぐことができたため、今まで中止していた行事やイベントの開催ができ、特に新年会は数年ぶりにユニット合同で実施し、盛り上がりを見せた。しかし、職員や利用者の家族が感染した事例はあり、また季節によって近隣で流行することもあったため、これからも予防対策の継続は必要であろう。対策のひとつであるBCPについては、感染症と災害ともに研修と訓練を2回ずつ開催し、また計画の見直しも行った。今後起こりうる感染症パンデミックや大災害に備えるためにも、来年度以降も継続・見直しをしていきたい。

働きがいのある職場作りとしては、近年多様化する職員の状況に柔軟に対応した。まず外国籍職員が多くなってきているため、翻訳機能があるタブレットやラインワークス（ビジネス用ライン）を記録や連絡に使用し、言語の壁を出来るだけ低くなるように努めた。しかし、会議や申し送りのやりとり、マニュアルや規定等の文章の読解力などでまだつまづくこともあり今後の課題である。数年前までは日本人職員のサポート的な一面が強かったが、現在は人数も多くなり、どちらかと言えば場面によってメインで頑張ってもらふ必要性が出てきている。より一層、外国人職員が働きやすい環境作りが求められる。また、産休や育休が明けて仕事に復帰した職員も多い年度であり、時短勤務やその後の変則勤務等に対応して、子育てしながら無理なく仕事復帰が出来る環境作りができた。年度の終わりには法人が定年を60歳から65歳に引き上げる改正を行い、ベテラン層の方も可能な限り仕事が続けられるようになったのではないかと考える。

さて、今年度は県と市による「運営指導」が実施された。コロナ渦中は中止・延期されていたので、ひさしぶりの指導となった。口頭による指摘はいくつかあったが文章による指摘はなく、口頭指摘もすぐに対応・改善して内容を回答している。次の指導では口頭指摘もなくなるよう、しっかりとした運営を行っていきたい。

最後に、現中期行動計画は今年度で終了となり、来年度より新規中期行動計画が開始される。この5年間でどのような施設になるか楽しみがある反面、抱えている課題も多い。清流の郷は築20年が過ぎ、建物や設備の老朽化が目立つ。更新をしないと稼働ができないものもあり、入居者・利用者の生活に影響が出てくる可能性が高い。また、新しいテクノロジーや機器の導入により職員の労働意欲につなげていきたい。この施設を存続させ、高齢者が安心・安全な生活を送り、職員が働きやすい環境を守るために、しっかりと中期行動計画を実行し、収支のバランスを図りながら、時代に沿った運営をこれからもしていきたい。

## 2. 管理部

### 【年度目標1】利用者に『喜んで』ご利用頂ける施設づくり

(評価) 介護サービスを施設利用者に喜んでご利用頂くために、他部署との連携を密に取りながら、利用者のご家族の面会準備対応や、人員が不足する部署への業務支援を行った。

「整理整頓の日」を中心に、除草作業や倉庫の備品整理、また地元中学校から頂いた鉢植えプランターの育成など、施設の環境美化に積極的に取り組んだ。防犯訓練を実施し、施設の防犯に関する対応方法の確認を行った。

### 【年度目標2】職員の健康を増進

(評価) 職員が、いつまでも自分らしく、心身ともに元気に勤務ができるよう健診結果に基づき、再検査が必要な職員への病院受診を呼びかけた。

日常的に管理部から職員への声かけを行いながら、毎日のラジオ体操の実施と、月次の衛生委員会で検討した「健康に役立つ情報」の発信を通して健康増進を行った。

### 【年度目標3】感染症予防の徹底

(評価) 来館者への手指消毒や検温の徹底と、毎日定刻に施設内換気を行った。

周辺地域や他施設の感染症情報収集に努めながら、職員間で情報共有した。数人の職員がコロナやインフルエンザに感染したが、施設に大きな被害も無く、一年を終えることができた。

感染症委員会を中心に、感染症対応のBCP研修と訓練を年度2回ずつ行い、職員の技術力と意識を高めることができた。

## 総務係・用務係

### 【年度目標1】設備や備品を大切にす

(評価) 前年度より生産性向上委員会を中心に、機械浴槽更新の準備を行い、JKA(日本競輪協会)補助金事業を活用しながら、2階「はるなの湯」に設置した。今後は、経年劣化により修理ができない空調やその他の設備更新などを検討していきたい。

### 【年度目標2】災害に備える

(評価) 自然災害対応のBCP研修と訓練を年度内に2回ずつ実施し、備蓄品(乾電池や保存水)等の確認や、災害用設備の使用方法を確認した。

『永光会・事故防止の日』にラインワークスを活用して「行方不明者の捜索訓練」を全職員参加で行った。

年度目標以外の取組みとして、以下を実施した。

(1) 指導検査

1. 群馬県運営指導 令和 7年 7月10日 受審
  2. 渋川市運営指導 令和 7年10月 9日 受審
- 文書による指摘事項はなく、口頭による指摘事項を改善し、県や市に報告

(2) 職員健康診断やインフルエンザ予防接種等の状況

1. 職員健康診断状況
  - 令和 7年12月11日 61人 (全体職員健診)
  - 令和 7年 7月 7日～8月29日 25人 (夜勤従事職員健診)
2. インフルエンザ予防接種
  - 令和 7年11月17日と12月 1日 (利用者と職員)
3. ストレスチェック実施状況
  - 令和 7年11月23日～30日 52人 (週30時間以上勤務者)

(3) 施設不在者投票・期日前投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 参議院議員選挙
  - 令和 7年 7月16日 利用者 5人
2. 渋川市長選挙
  - 令和 7年 8月28日 利用者 1人
3. 衆議院議員選挙
  - 令和 8年 2月 4日 利用者 4人

### 3. 特養部

【年度目標1】生産性向上による入居者が笑顔で生活できて職員が働きやすい施設づくり

(評価) 11月に2階はるなの湯に機械浴を設置（JKAの補助事業にて導入）し、12月から稼働を開始した。以前、機械浴は1階あかぎの湯までの誘導が必要だったが、誘導する職員が不要となり、介護職員5人、看護職員3人で対応していた入浴が、介護職員3人、看護職員1人で対応できるようになった。

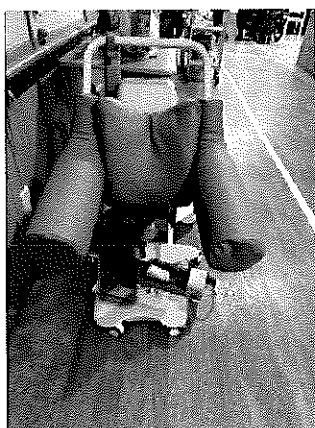
12月にHugを2台、1月に離床センサー付き電動式ベッドを2台購入した（令和7年度群馬県介護テクノロジー定着支援事業の補助を受け購入）。これらの導入と使用方法の計画・評価を繰り返し、介護現場の生産性向上に取り組んだ。

【年度目標2】加算取得のための取組みによる職員のスキルアップとケアの質の向上

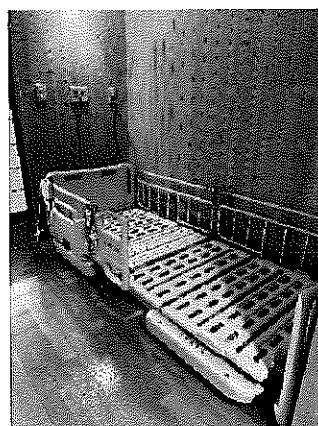
(評価) LIFEによるフィードバックを受け、口腔・栄養、認知症の項目について評価し、振り返りや研修会を企画・開催し、ケアの質の向上と職員のスキルアップに役立てた。新しい加算は、5月と12月に看取り介護加算（Ⅱ）、8月から高齢者施設等感染対策向上加算（Ⅱ）を算定することができた。現在、排泄支援加算の算定に向けて、排泄委員会を中心に準備中である。

【年度目標3】ベッド稼働率96.5%

(評価) 年間ベッド稼働率は、97.3%と目標を達成することができた。年間の退所者数が11人と例年に比べ減少したことで、安定したベッド稼働率を維持し、目標を達成することができた。7月10日に群馬県監査指導課による運営指導があった。指摘を受けた事項については、適正な事業運営のため、速やかに変更や訂正を行った。当日の総評では、「全体的に利用者、職員も明るく、雰囲気がとても良かった」とコメントを受けた。10月と11月に入居者1人ずつのコロナ感染が判明したが、早期の対応により施設内での蔓延を防止することができた。日中活動を充実するため、集団と個別の活動に取り組んだが、介護人材不足の影響により、9月以降やむを得ず休止することになった。入所待機者や新規の入所申込者が少ない状況は続いている。



Hug



離床センサー付き電動式ベッド



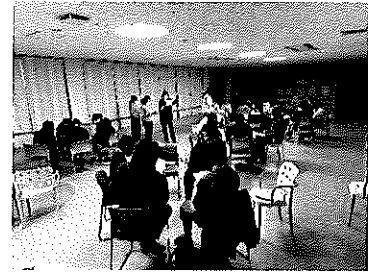
はるなの湯機械浴



集団活動



施設内研修



施設内訓練

## 1) 介護課

### 【年度目標1】介護職員の資質向上とモチベーションアップ

(評 価) タブレットによるケア記録のリアルタイム入力を徹底し、ケア記録による看護課や栄養課との情報共有を強化し、連携を図ることができた。基本的な介護技術として、リスクマネジメント・ポジショニング・認知症ケアについての研修を開催し、介護職員がケアを振り返り、資質向上とモチベーションアップに取り組んだ。

### 【年度目標2】時代に求められる施設介護職員

(評 価) 介護職員がLOVOTと入居者の触れ合いをサポートしたことで、入居者の笑顔がみられ、コミュニケーションの機会が増加した。外国人のアルバイト職員3人の認知症介護基礎研修の受講をサポートし、修了することができた。各委員会を中心に介護職員として必要なスキルアップに取り組んだ。排せつ支援加算の取得に向けて準備中。

## 2) 看護課

### 【年度目標1】入居者、利用者のより良いケアを継続する

(評 価) 日々の健康観察や個別性を重視した看護の提供により入居者、利用者の状態変化の早期発見と対応に努めた。タブレットの情報共有により他職種間の連携がスムーズに取れ、継続的なケアに繋がった。

### 【年度目標2】入居者、利用者が安心かつ安全に生活を維持できる看護を目指す

(評 価) 感染対策の徹底や日常的な健康観察、異常時の早期対応により、全体として入居者の健康管理体制は維持できた。しかし転倒事故による骨折が2件発生しており、安全面において課題が残った。

転倒リスクの高い利用者に対する個別的な予防策や環境調整、職員間での情報共有・認識統一が不十分だった事が考えられる。アセスメントの精度向上と具体的な再発防止策を職員間で共有し実践の定着を図る必要がある。

### 【年度目標3】職員が働きやすい環境、長く勤められる職場づくりをする

(評 価) 看護職員の離職はなく、人材は定着した。業務分担の見直しや情報共有の工夫により一定の業務効率化は図れた。介護職員の人手不足の際はフォローに入るなど協力体制がとれ現場の運営を支える事ができた。相互に支援しあうことでチーム全体の連携強化および組織力の向上にも寄与したと考える。

### 3) 栄養調理課

【年度目標1】 衛生管理を徹底し、事故のない安全で質の高い食事づくり

(評価) 6月「キャベツのカニカマ和え」にドレッシングの内蓋が混入する事故があった。介護職員が食事介助時に発見し、提供を中止した。8月「豆腐の回鍋肉風」の超キザミにビニール片が混入していることが厨房内で発覚し、再加工を行なった。昨年度より事故件数が増えてしまった。再発防止に努め、来年度は異物混入の事故ゼロを目指していきたい。

【年度目標2】 イベント食等を年6回以上実施し、季節に合った食事の提供

(評価) 季節に合わせたイベント食を提案した(付表-11 行事食参照)。超キザミ、ペースト食の提供数が増加したため、イベント時には、食べやすく、見た目も楽しんでいただけるようムース食に力を入れた。

忘年会で提供した豚角煮のムースは、常食の豚角煮を加工することで、味は変えることなく、食べやすくすることが出来た。



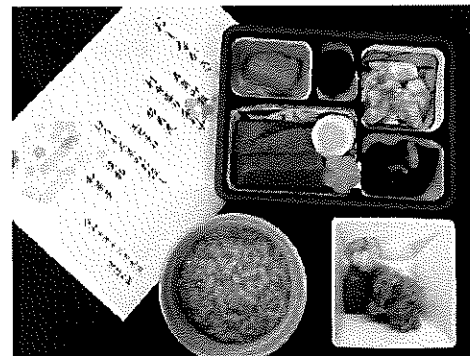
5月昼食「端午の節句お茶会」



7月昼食「土用の丑の日」



12月昼食「忘年会」常菜



ムース食



1月おやつ「初釜」



3月おやつ「菱餅風デザート」

【年度目標3】入居者・利用者の状態に合わせた柔軟な対応

(評価) タブレットが導入され、調理職員でも利用者の体調などの申し送り状況が確認できるようになった。しかし、タブレットの操作に慣れていないため、すべての職員が確認するまでには至っていない。

料理の状態などを口頭では表現が難しいことも、タブレットで動画や写真を残すことでより詳細な情報共有が可能となった。来年度は申し送りから得た情報をリアルタイムで生かせるようにしたい。

【年度目標4】働きやすく、個人のスキルを活かせる、やりがいのある職場環境

(評価) 8月に給食用食材の展示会があり、栄養士と調理師2人が参加した。栄養士・調理師それぞれの視点で食材を探し、給食に新メニューを取り入れることが出来た。調理師の発案で3月のひなまつりに菱餅風デザートを提供した。

日頃から好評のスベラカーゼもちを基礎とし、全食事形態の方に安全に召し上がっていただけるよう工夫した。利用者のみならず、職員からも好評だった。

株式会社療食サービスの広報誌にて、昨年度実施したおやつイベントのスポンジケーキとスポンジゼリーの紹介していただいた。

# 療食通信

〒202-8661 千葉県市川市 2025年12月発行 175巻  
 株式会社療食サービス TEL 029-8661-0131  
 千葉県市川市 保健センター FAX 029-8661-0133

---

「教えて! とのりの栄養課」 調理師さんのこだわり生地が味のしめる

## 見たい! 聞きたい!

### <とのりレシピ>

今回、お話を伺ったのは  
 特別養護老人ホーム  
 清涼の郷 栄養調理課  
 栄養士 関口 様

今回は、お話しが主とした  
 イベントが盛りだくさんのおやつよ。

手作りスポンジケーキと  
 スポンジゼリーです!

「おいしい」と思っていたけれど、草やがで、  
 食欲の出る見た目になるよう工夫しました。  
 例下調理室は「見た目は常盤にそっくりだけど、  
 食べやすい」を目標に調理しています。

スベラカーゼを抜いた  
 「お餅」「水ようかん」  
 「大瓜」などの和菓子も  
 好評です。

高良のスポンジは、既製品や  
 レンズのものよりもしっとりとした  
 スポンジに仕上がると、脱脂で焼いています。  
 調理師それぞれが経験を重層、積んでいるため  
 それぞれの個性がはまるも楽しみのひとつです。

スポンジゼリーも焼いたスポンジを使用してい  
 るので、焼き目の白味なども高良同様に残して  
 ことが出来ます。

## スポンジ ゼリー

見た目もかわり  
 食べやすい!



「スポンジケーキ」 「スポンジゼリー」

「スポンジゼリーの作り方」

- ① ボウリングスベラカーゼを  
 大きめによく切ります。
- ② 袋にスポンジ生地と牛乳を  
 入れ、おき混ぜながら  
 混ぜます。
- ③ スポンジ生地が均一になったら、②を入れて均等に  
 混ぜます。
- ④ バット型に入れ、冷やします。
- ⑤ お好みの形にカットし、等分切ります。
- ⑥ ホットクリーム、ジャム、  
 やさしい果物ソース等を  
 盛り付け完成です。

「スポンジゼリーの材料」

スベラカーゼ	6g
卵	60g
スポンジ生地	40g
牛乳	200g

ご利用者のご要望は、おかげさまで  
 甘いものは大人気で、みなさんしつかり召し上がって  
 くださいます。

配膳時に、ご利用者様介護職員から  
 「まあ! きれい!」「おいしいそう!」とい  
 うお声もいただき、見た目も好評です。

「おやつ」の楽しみは、おやつを通じて  
 日々の楽しみのひとつとなるような食事提供  
 を心がけています。是非に合ったイベントや  
 行事等を企画しています。

スポンジゼリーも焼いたスポンジを使用してい  
 るので、焼き目の白味なども高良同様に残して  
 ことが出来ます。

広報誌「療養通信」の記事

## 4. ショートステイ

### 【年度目標1】利用者満足度の向上

(評 価) 個別のシートを作成し、居室の環境作り、生活リズム、過ごし方について情報を共有し、日常のケアに活かした。また、誕生日・誕生月にはアルバムを作りプレゼントした。眠りSCANにより、生活リズムの把握や不要な訪室を減らすことで、利用者のプライバシーに配慮し、タイムリーな対応を心掛けた。こうした取組みの結果、年間で32人の新規利用者と契約した。また、他のショートステイ事業所からの変更や定期利用に繋がることもあった。

### 【年度目標2】送迎事故『ゼロ』

(評 価) 運転前後にアルコール検知器を活用し、酒気帯びでないことの確認を徹底し記録に残した。10月からは、交通安全教材のDVDをユニット会議で活用し、運転中のマナーや送迎中の危険箇所について情報共有を行い、送迎中の安全運転について徹底した結果、送迎事故『ゼロ』を達成することが出来た。

### 【年度目標3】基本的ケアのレベルアップ

(評 価) 「おはよう21」を活用し、認知症ケアを中心にユニット会議や介護課会議で研修会を企画・実施した。ユニット会議では、個別の事例について振り返りを行い、認知症ケアのレベルアップを重点的に取組んだ。他の事業所で受入れが困難だった方の対応に成功することもあれば、失敗することもあった。個々の職員のスキルアップを目指し、全体としての対応力を向上したい。

### 【年度目標4】ベッド稼働率75%

(評 価) ベッド稼働率は、75.4%と目標を達成することができた。9月末時点では、ベッド稼働率が65.4%だったが、10月以降は利用者が増加し、ベッド稼働率を10ポイント上昇することができた。要因は、対応が難しい方の受け入れや居宅介護支援事業所への空き情報の提供と利用中の様子についてのフィードバック、利用者の健康チェックの徹底による感染症蔓延防止のための取組み、近隣の老人保健施設の閉鎖等であると思われる。



餅つき



新年祝賀会



お誕生祝い

なお、コロナ渦が明け、これまで開催できなかった行事・イベントの開催が可能になり、少しずつ日常を取り戻しつつある。特養とショートステイの年間行事状況をここに示したい。

日付	行事名	内容
4月 4日 7日 12日 23日	花見	敷島公園や施設周辺の花見の名所に出掛け、ドライブと桜を見て楽しんだ。12日には、思い出の桜を見るため、個別の企画で赤城町樽の川沿いの桜を見に出掛けた。
5月 6日	端午の節句 お茶会	こいのぼりと五月人形で2階交流ホールを装飾し、立礼式作法にて、お茶会を楽しんだ。また、音楽を流し、お香で落ち着いた雰囲気づくりを演出した。
7月 7日	七夕 お茶会	短冊や七夕飾りで2階交流ホールを装飾し、立礼式作法にて、お茶会を楽しんだ。また、音楽を流し、お香で落ち着いた雰囲気づくりを演出した。
7月27日	猫祇園	轆鈴を鳴らし、山車を迎え太鼓と笛の演奏でお祭りを楽しんだ。また、地域住民との交流を図った。
9月15日	慶 祝 会	2階交流ホールに集まり、慶祝状の贈呈と記念撮影を行い、長寿を祝った。
10月 6日	十 五 夜	各ユニットでお供えの団子を作り、ススキと団子をお供えし、十五夜を愛でた。
11月 2日	十 三 夜	各ユニットでお供えの団子を作り、いぶき農園で収穫したサツマイモとススキと団子をお供えし、十三夜を愛でた。
12月 9日	忘年会	各ユニットで忘年会を企画し、動画の視聴や特別食を食べて、一年を振り返った。
12月25日	クリスマス	各ユニットをクリスマス装飾し、ケーキを食べて楽しんだ。
12月26日	餅つき	2階交流ホールに集まり、餅つきを行った。その餅でお供え餅を作り、お正月を迎える準備を行った。
1月 1日	新年祝賀会	数年ぶりに2階交流ホールに集まり、おみくじで縁起を担ぎ、お屠蘇で乾杯し、おせち料理を食べて、新年を祝った。
1月12日	鏡開き・初釜	2階交流ホールで鏡開きを行った後、初釜で新年を迎えたことを祝った
2月 3日	節 分	鬼に扮した職員が各ユニットを回り、利用者と職員で豆を蒔き、邪を払い、福を招き一年の健康を祈った。
3月 3日	桃の節句	2階交流ホールにお雛様を飾り、記念撮影を行った。

## 5. デイサービス部

令和7年度は「介護現場に革命を起こそう」をテーマに、接遇スキルの向上を掲げ利用者のデイに来る楽しみを模索し、「職員と利用者」「利用者利用者」の関係づくりに取り組んだ。快適なサービス環境の整備として、送迎車両3台の更新をはじめ、シャワーヘッド・電動ベッド・カーテンレール等の更新を行った。結果、年間延べ利用者数8,728人と目標を達成することができた。また、大きな変更として近年の食材費高騰を受けて、令和8年1月から昼食代520円から620円へ価格変更を行った。

令和8年3月に利用中の転倒をきっかけで利用休止となり、その3週間後に亡くなる事故が発生した。この事故をきっかけに、リスクマネジメントに対する課題が浮き彫りとなり、あらためて、館内の安全点検と利用者の状態に合わせた付き添い・介助方法の見直しを行っており、職員一丸となって再発防止に努めていきたい。

### 【年度目標1】 介護現場の接遇スキルの向上

(評価) 接遇向上に向け、職員個々に言葉遣い・態度について話し合い、会議で利用者からのありがとうエピソードを発表する機会をつくった。言葉遣いについては、改善するものの、時間の経過で乱れが生じてしまうため、引き続き具体的な良い関わり方と不適切ワードを共有しチーム全体で接遇スキルを身につけていきたい。

### 【年度目標2】 介護現場の生産性向上（ICT化の取組み）

(評価) 電気自動車は、坂道・雪道も快適に走行可能で、災害時に備えて、毎朝フル充電の状態を保つように管理した。また、全車両に、乗降をサポートする手すりを取付け安全に使用できている。タブレット端末は、7月にワイズマンによる勉強会を行い、職員全員が基礎的な入力・閲覧操作ができるようになった。この他、厚労省が推進するケアマネジャーとのやりとりを紙からデジタル化へ向けたケアプランデータ連携システムによるデータ電送を令和8年2月から開始した。

### 【年度目標3】 感染症予防策の徹底

(評価) マスク着用と乗車前検温は継続しながら、4月から卓上アクリル板を撤去した。職員・利用者家族の感染はあったものの、利用中の発症者はゼロであった。また、5月、8月、12月の大型連休前に感染症注意喚起のお知らせを配布した。利用中の体調不良の際は、お迎えや受診等の対応がお願いできて、感染症予防に対する協力体制が維持できた。

## ○日常生活支援総合事業（介護予防ケアマネジメント）

### 【年度目標1】 在宅生活継続のための「他者交流支援」と「リハビリ目標」の実践

(評価) 「デイに来れば会える」という馴染みの関係が形成できた。友達と会って話すことが一番の目的と満足の声が聞かれた。

散歩コース一日4周をリハビリ目標に設定し、全員が達成できた。その内3人は、一日10周1500m歩かれており、趣味が散歩という利用者の受け皿になった。

【年度目標2】実利用者数 月10人以上

(評価) 4月は8人でスタートしたが、月平均5.8人と減少し、目標未達成となった。利用終了者6件のうち、5人が持病の悪化、転倒をきっかけに施設入所となった。

○介護保険事業

【年度目標1】多様なニーズに対応するレク活動・機能訓練活動の創設

(評価) 種類が豊富なレクリエーションとPT指導の機能訓練に加え、パッチワーク、散歩コースや手芸等の「個別活動」、中庭の畑作業や園芸、カラオケ等の「グループ活動」を実施した。今後も仲の良い利用者2～3人で出来るグループ活動を増やしていきたい。

【年度目標2】年間延べ利用者数7,675人以上

(評価) 年間を通して問合わせ件数は多く、新規37人を受け入れて、年間8,270人と目標を達成することができ、過去5年間で最も多い利用者数となった。集客に向けて力を入れたのは「見学対応」であり、本人・家族・ケアマネジャーに、館内・入浴設備・フロアの雰囲気・LOVOT・活動の様子を見ていただき説明を行った。

利用する本人はもちろん、家族の不安も解消し、選択肢の中から選ばれている手応えを感じた。利用開始から定着までの間、相談しやすいと家族・ケアマネジャーからは好評いただいた。

また、昨年以降、要介護5の利用者は大幅に増加して、重度利用者の対応できる事業所という印象がケアマネジャーからの依頼につながった。



施設見学の様子

1) 介護係

【年度目標1】利用者のやりがいや楽しみのあるデイサービスの創設

(評価) 11月に金島ふれあいセンターで手芸作品展を開催した。観覧者が延べ120人集まり、地域のたくさんの方に見てもらえたことは出展した利用者の励みになった。趣味活動を上手く発表できたことでやりがいは継続している。レクリエーションは、チーム対抗戦で行うポッチャの人气が高く、仲間のためにがんばるという意識で盛り上がりを見せた。散歩コースは、参加者を増やすためにルールを変更。歩いた距離に応じて景品がもらえる仕組みで実施中。イベントは年間予定をすべて開催することができた。特に、夏祭り

と忘年会は慰問を招き、盛大に実施することができた。なお、日常の活動やイベントの様子は散歩コースに掲示して観てもらっている。引き続き、馴染みの交友関係づくりを継続していきたい。



①作品展



②夏祭り（藤岡ダルク）



③忘年会（笑顔おとどけ隊）

### 【年度目標2】 役割ごとの取組みを充実させて生産性の向上

（評価） タブレット端末の担当を設ける予定だったが、勉強会以降全員が基礎レベルの操作ができるようになり、申し送り機能を使い、業務日誌の役割を担うようになった。レク・イベントは月例担当者が工夫して実施した。

L I F Eの入力は1人から2人体制へ変更した。散歩コースの活用は、看護係と相談員中心に進めている。

### 【年度目標3】 職員のスキルアップと働きやすさを追求

（評価） 仕事に対する姿勢といつまで働きたいというキャリアビジョン等、個々の目標を言語化するために、職員面談を実施した。また、面接で言葉遣いや接遇について評価を行った。1月に看護職員を採用したが、職員教育に不安を感じる職員が多いことが判明した。今後は、育成プログラムを整えながら、全体の足並みを揃えていきたい。

## 2) 看護係

### 【年度目標1】 機能訓練を充実させて利用者の筋力を維持する

（評価） P Tの指示で、購入したリハビリ物品（バランスパッド）を使い、バランス能力を鍛える訓練メニューに取り組んだ。今後も下肢筋力を強化し、転倒防止につなげていきたい。また、立ち座りや歩行動作を評価し、散歩コースの参加につなげたい。

### 【年度目標2】 利用者の健康管理と感染予防

（評価） 利用者のバイタルや皮膚状態等些細な変化に気づき、家族、ケアマネジャーに報告することで早期発見・早期受診につながった。また、大きな褥瘡のある利用者の処置を重点的に継続しており主治医からの評価につながった。

発熱や風邪症状等感染症が疑われる場面では、速やかに静養室に移動し、慌てず対応を実践することができた。

## 6. 付表

施設整備等実施状況 (表-1) (千円)

項目	内容			備考		
設備修繕	施設全体	食器洗浄機扉等修理	1式	令和 7年 6月完了		120
設備更新	特養	業務用衣類乾燥機更新	1式	令和 7年 6月完了		960
設備更新	特養	居室自動水栓温水器更新	1台	令和 7年10月完了		166
設備更新	施設全体	エレベーターロープ更新	1式	令和 7年11月完了		660
設備修繕	特養	はるなの湯改装工事	1式	令和 7年11月完了	2,	200
設備更新	特養	はるなの湯脱衣所ガラス更新	1式	令和 7年11月納品		176
設備購入	特養	特殊機械浴槽設備購入	1式	令和 7年11月納品	9,	992
設備購入	特養	オートクレーブ購入	1台	令和 7年11月納品		338
設備購入	デイ	ベーシックベッド購入	3台	令和 7年11月納品		759
設備修繕	特養	栄養課洗濯機等設置工事	1式	令和 7年12月完了		145
設備購入	特養	栄養課専用洗濯機購入設置	1台	令和 7年12月納品		220
設備購入	特養	パントリー洗面化粧台購入	1台	令和 7年12月納品		103
備品購入	特養	移乗サポートロボHUG購入	2台	令和 7年12月納品	1,	720
設備更新	特養	リビング用温水器更新	1台	令和 8年 1月納品		242
備品購入	特養	電動リモコンベッド購入	2台	令和 8年 1月納品		759
設備増設	特養	Wi-Fi 中継局増設工事	1式	令和 8年 3月完了		160
備品購入	特養	ノートパソコン購入	1台	令和 8年 3月納品		260
設備修繕	施設全体	エアコン設備修理	1式	令和 8年 3月完了		412

施設外研修と会議 (表-2) 出席件数 (前年度)

職種	部会・定例会・会議	一般研修
施設長	18 (18)	6 (6)
相談員 (特養・デイ)	6 (6)	5 (5)
介護職員 (特養・デイ)	1 (2)	3 (3)
看護職員 (特養・デイ)	5 (5)	6 (6)
栄養調理・管理部職員	1 (1)	4 (6)

※研修や会議は、WEBリモート開催等を含む。

※運営会議と管理部会議、編集委員会は、法人開催により上記に含まない。

会議の実施状況 (表-3)

会議名	実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
法人運営会議	12	4	理事長 業務執行理事 事務長	法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定
部長会議	4	4	施設長 生活相談員 管理部長	施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定
代表者会議	12	8	理事長 施設長 生活相談員 ケアマネ 看護課長 栄養士 管理部長	各部門懸案事項の審議、方針の徹底等
生産性向上委員会	9	8	施設長 生産性向上委員	業務や施設設備等に関する懸案事項の協議・検討
衛生委員会	12	8	施設長 衛生委員 産業医	労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発
リスクマネジメント委員会	12	8	施設長 リスクマネジメント委員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し
感染症対策委員会	12	8	施設長 感染症対策委員	感染症に対する対策について協議・検討
入所等検討委員会	7	10	施設長 特養相談員 第三者委員 ケアマネ 介護・看護職員 栄養士	施設利用待機者の入所順序を審議・検討
サービス担当者会議	12	9	施設長 ケアマネ 特養相談員 特養介護・看護職員 栄養士	利用者ケアプラン作成、モニタリングなど
褥瘡対策委員会	12	9	施設長 特養相談員 ケアマネ 特養介護・看護職員 栄養士	褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し
L I F E活用委員会	12	9	施設長 特養相談員 ケアマネ 特養介護・看護職員 栄養士	L I F Eを活用したケア等に関する協議・検討
ユニットリーダー会議	12	8	施設長 特養相談員 ケアマネ ユニットリーダー	ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討
特養介護課会議	10	15	施設長 特養相談員 特養介護職員	介護サービス懸案事項の協議・研修
デイサービス全体会議	12	12	施設長 デイ相談員 デイ介護職員 デイ看護職員	デイサービス懸案事項の協議・研修
栄養調理課会議	7	6	施設長 栄養士 調理職員	栄養調理課内の諸事項の協議・研修
看護課会議	6	6	施設長 特養部看護職員	看護業務に関する懸案事項等の協議・研修
排泄委員会	12	6	施設長 特養相談員 排泄委員 メーカーアドバイザー	排泄介助のための協議・検討と実施、反省
栄養・食事委員会	11	8	施設長 特養相談員 栄養士 栄養委員 食事委員	給食や食事に関する事項審議、行事食、食事介助
防災管理委員会	12	6	施設長 防災委員 訓練参加職員 訓練立会消防署員	防災計画、訓練実施と反省、月次安全管理と点検

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

職員の配置状況 (表-4)

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢(平均)	勤続(平均)	人数	年齢(平均)	勤続(平均)
施設長	1	60	9.0	(1)		
事務職員	2	62	18.0	(2)		
生活相談員	1	48	18.0	1	47	2.0
				(4)		
介護支援専門員	(2)					
介護職員	24	42	4.8	7	49	9.5
(非常勤)	9	44	5.1	1	81	17.0
看護職員	5	45	6.8	3	52	9.9
(非常勤)				1	67	0.3
機能訓練指導員						
(非常勤)	1	54	18.0	1	32	5.0
栄養士	1	33	6.3	(1)		
調理職員	4	45	8.3	(4)		
(非常勤)	1	75	0.8	(1)		
医師						
(非常勤)	2	67	17.2			
清掃洗濯職員	1	63	2.0	(1)		
(非常勤)	3	56	11.4	(3)		
合計 常勤	39	48.8	9.2	10	49.3	7.1
合計 (非常勤)	16	59.2	10.5	2	60.0	8.7

( ) は兼務

令和 8年 3月31日現在

・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務

・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

職員の資格取得状況 (表-5)

重複資格取得者あり

令和 8年 3月31日現在

		社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	調理師	(略称吸引)従事者 認定特定行為業務
特 養	生活相談員	1	1	1						
	介護職員		26	1						25
	看護職員				3	2				
デ	生活相談員		1	1						
	介護職員		5							2
イ	看護職員				2	2				
栄 養	栄養士							1		
	調理職員							1	4	
令和 7年度 合計		1	33	3	5	4	0	2	4	27
令和 6年度 合計		1	33	4	4	5	0	2	4	24

特養 入退所状況 (表-6)

	実利用者数	入所者数	退所者数
男	15人 (14)	2人 (6)	3人 (1)
女	43人 (50)	8人 (8)	8人 (15)
合計	58人 (64)	10人 (14)	11人 (16)

( )内は、前年度の人数。

(入所者内訳) (表-7)

	病院	老人保健施設	在宅	有料老人ホーム
男	0人	1人	1人	0人
女	3人	2人	2人	1人
合計	3人	3人	3人	1人

在宅の3人の内、2人は清流の郷ショートステイからの入所。

(退所者内訳) (表-8)

	死亡	長期入院	在宅復帰	その他
男	3人	0人	0人	0人
女	8人	0人	0人	0人
合計	11人	0人	0人	0人

死亡11人の内、10人は清流の郷で死亡。1人は、入院先の医療機関で死亡。

市町村別(介護保険者)入所状況 (表-9)

渋川市	昭和村	伊勢崎市	前橋市
55人	1人	1人	1人

給食数 (表-10) (単位: 食)

	一日平均食数	年間合計
特養利用者	150	54,936
ショートステイ利用者	25	9,155
デイサービス利用者	24	8,718
特養職員(夜勤等勤務者)	4	1,437
合計	226	82,938

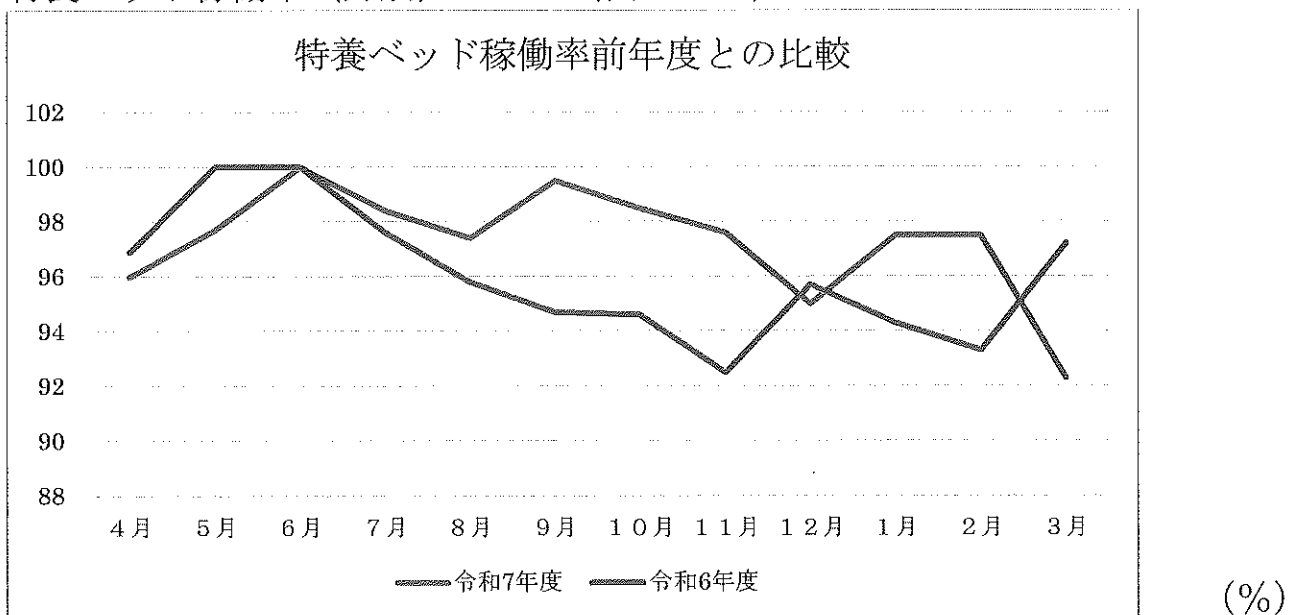
行事食 (表-11)

日付	行事名	食事	食事内容
5月 6日	端午の節句 お茶会	おやつ	・柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶
7月 7日	七夕	昼食 おやつ	・七夕そうめん、星形フルーツ、他 ・和菓子、水ようかん、抹茶
31日	土用の丑	昼食	・うなぎちらし、すまし汁、他
8月 1日	釜の口開け	おやつ	・饅頭
14日	お盆	おやつ	・おはぎ
9月 9日	重陽の節句	昼食	・栗御飯
15日	敬老の日	昼食	・赤飯、豚角煮、天ぷら、他
10月 6日	十五夜	おやつ	・饅頭
11月 2日	十三夜	おやつ	・ふかし芋
12月 9日	忘年会	昼食	・舞茸御飯、刺身、豚角煮、エビチリ、和菓子、等
19日	デイ忘年会	昼食	・赤飯、刺身、天ぷら、漬物、等
22日	冬至	昼食	・かぼちゃ御飯、他
25日	クリスマス	昼食 おやつ	・クリームシチュー、星形フルーツ、他 ・クリスマスケーキ、シャンメリー
26日	餅つき	おやつ	・おしるこ、おろし、きな粉、他
31日	大晦日	夕食	・年越しそば、天ぷら(えび・かき揚げ)、他

1月 1日	新年祝賀会	昼食	・ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、伊達巻、里芋煮、他
7日 12日	七草粥 初釜	朝食 おやつ	・七草粥風、他 ・おしるこ、抹茶
2月 3日	節分	おやつ	・鬼プリン
3月 3日 23日	ひなまつり お彼岸	昼食 おやつ	・ちらし寿司、さくらもち風デザート、等 ・ぼたもち

・毎月1日は赤飯提供

特養ベッド稼働率（月別）（表－12）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和7年度	96.0	97.7	100	98.4	97.4	99.5	98.5	97.6	95.0	97.5	97.5	92.3	97.3
令和6年度	96.9	100	100	97.6	95.8	94.7	94.6	92.5	95.7	94.3	93.3	97.2	96.1

特養 月別 入院者推移（表－13）

実入院者数	5人	延入院者数	5人
延入院日数	97日	一人平均入院日数	19.4日
最長入院日数	40日	最小入院日数	1日

特養 月別 実入院者数と延入院日数（表－14）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実入院者数 (人)	0	0	0	1	2	2	1	1	0	0	0	2
延入院日数 (人)	0	0	0	3	24	0	22	18	0	0	0	30

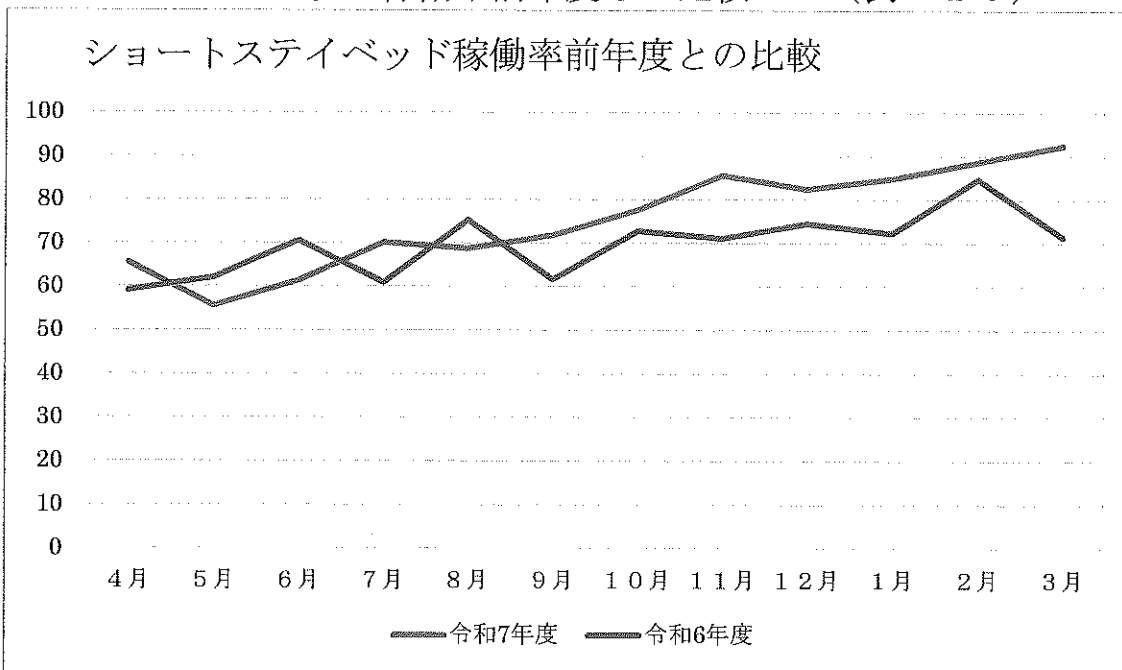
特養 令和7年度実習生受入れ

(表-15)

実習校名	実人数	延人数	備考
渋川北中学校	2人	6人	職場体験学習
赤城北中学校	1人	2人	職場体験学習
吾妻中央高等学校	2人	22人	1年生介護実習
吾妻中央高等学校	2人	56人	2年生介護実習
吾妻中央高等学校	2人	30人	3年生介護実習
群馬パース大学福祉専門学校	2人	34人	I-(3)
群馬パース大学福祉専門学校	2人	34人	II-(3)

ショートステイベッド稼働率前年度との比較

(表-16)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和7年度	65.6	55.6	61.4	70.2	68.8	71.9	77.7	85.6	82.5	84.9	88.7	92.5	75.4
令和6年度	59.2	62.1	70.6	61.0	75.3	61.7	72.8	71.1	74.5	72.3	84.8	71.5	69.7

ショートステイ 月別 実利用者数と延べ利用者数

(表-17) (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	23	22	27	30	27	27	30	30	24	23	23	24	310
延べ利用者数	236	207	221	261	256	259	289	308	307	316	298	344	3,302

通所介護 延べ利用者数・目標達成率 (表-18)

	営業日数	延べ利用者数	1日平均数	1日目標数	目標達成率
令和2年度	365日	7,940人	21.9人	24.5人	89.4%
令和3年度	365日	7,963人	21.8人	22.7人	95.9%
令和4年度	354日	6,520人	18.4人	23.0人	80.0%
令和5年度	366日	5,911人	16.2人	20.8人	77.8%
令和6年度	365日	7,391人	20.2人	18.1人	112.0%
令和7年度	365日	8,270人	22.7人	21.0人	108.1%

※令和4年度、7月(2日)と8月(9日)の合計11日間、コロナ感染により休館。

通所介護 新規利用者数 (表-19)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	5人	6人	4人	3人	3人	3人	3人	2人	1人	4人	2人	0人	36人
R7	3人	6人	5人	1人	2人	0人	3人	4人	3人	3人	2人	5人	37人

通所介護 要介護度別利用者推移 単位:(上段)人 (下段)% (表-20)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和2年度	3,105	2,425	1,417	506	487	7,940
	39.1	30.5	17.9	6.4	6.1	
令和3年度	2,865	2,602	1,238	779	479	7,963
	36.0	32.7	15.6	9.8	6.0	
令和4年度	1,864	2,418	1,041	681	516	6,520
	28.6	37.1	16.0	10.4	7.9	
令和5年度	2,139	1,670	1,003	476	623	5,911
	36.2	28.3	17.0	8.1	10.5	
令和6年度	2,657	2,332	1,093	340	969	7,391
	36.0	31.6	14.8	4.6	13.1	
令和7年度	3,282	2,254	1,451	160	1,123	8,270
	39.7	27.3	17.5	1.9	13.6	

通所介護予防 月別利用状況 (表-21)

	平均実利用者数(人)	延べ利用者回数(回)
令和4年度	13.4	1,091
令和5年度	9.8	791
令和6年度	9.9	831
令和7年度	5.8	458

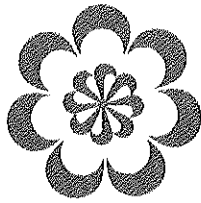
通所介護 年間行事

(表-22)

実施月	行事名	行事内容	職員研修
4月	花見	外出の企画は実施しなかったが、送迎時に桜の名所を巡回して花見を楽しんだ。	全体会議
5月	中華バイキング イベント季節湯	中華バイキングにてラーメン・餃子・炒飯を提供した(参加33人)。 菖蒲湯を実施した。	リーダー会議
6月			全体会議
7月	七夕イベント食	短冊に願い事を書き、作成した笹飾りの前で写真撮影。 イベント食は具材を選べる冷やし中華を提供した(参加39人)。	全体会議
8月	デイ祭り	露店食の提供と琉球太鼓エイサーの慰問を実施した(参加40人)。	全体会議
9月	敬老週間	88歳、90歳、95歳以上を対象に18名の方に慶祝状を贈呈した。	全体会議
10月	十五夜	お月見だんご作り。	全体会議 第1回身体拘束等適正化研修
11月	パッチワーク展	金島ふれあいセンターで手芸作品展を開催し、利用者20人が外出した。	全体会議 入浴研修
12月	忘年会 大正琴慰問 餅つき イベント季節湯	宴会食の提供と笑顔おとどけ隊による慰問、施設作成の年末ジャンボくじを実施した(参加40人)。 大正琴波川楓の会の慰問。 デイ利用者・職員による餅つき。 柚子湯を実施した。	全体会議
1月	祝賀会 初詣	施設長の新年挨拶とお屠蘇で乾杯し、調理課特製おせちを提供した。 清流神社へ絵馬を書き初詣へ。 お正月イベントは福引きを行った。	全体会議 入浴研修
2月	節分	交流ホールで已年利用者に袴を着用し福豆まきを実施した。	全体会議
3月	寿司バイキング	ホールに特設寿司カウンターを設置し、調理課の協力で、にぎり寿司を提供(参加38人)。	全体会議 第2回身体拘束等適正化研修

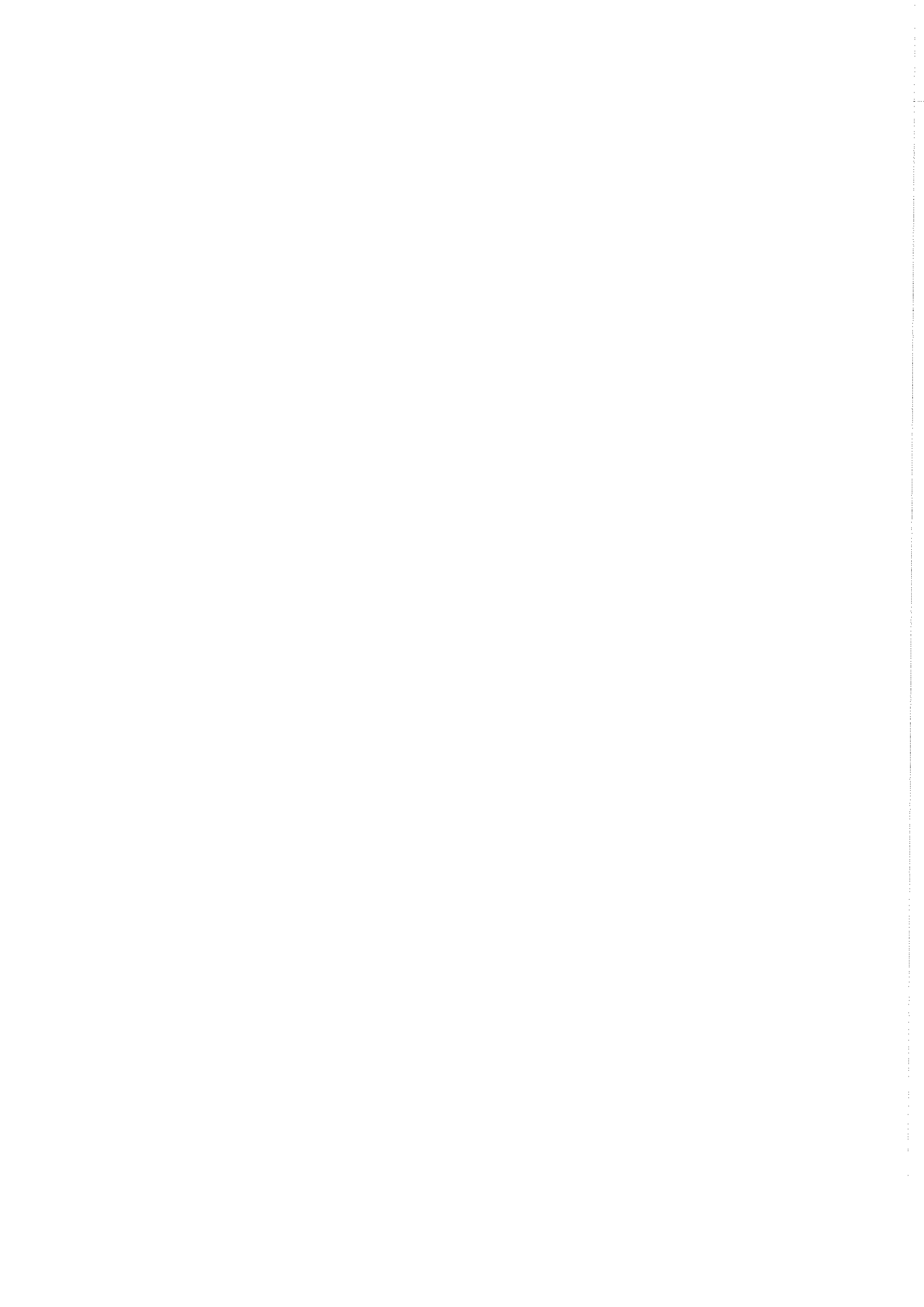
令和7年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

居宅介護支援事業所 永光荘



## 1) 総括

令和7年度は常勤職員4人、非常勤職員1人の計5人体制で事業運営を安定して行うことができた。サービス計画作成件数は介護・予防ともに目標を達成することができ、新たな取組みであるケアプランデータ連携システムの導入についても、他事業所と連携し、渋川市において主導的な立場で実施することができた。

【年度目標①】	年間延べ件数	1,810件	(1,510件(介護)300件(予防))
(評価)	年間延べ件数	1,905件	(介護:1,531件、予防:374件)
	月平均	159件	(介護:128件、予防31件)
	新規受入	79件	(介護:64件、予防15件)
	支援終了	47件	(介護:35件、予防:12件)

新規利用者の受入れは主に各医療機関や各地域包括支援センターからの相談が多い。また過去に支援を行った利用者家族からの新たな依頼が令和6年度以降増加している。支援相談地域としては、渋川市内に加え吉岡町からの支援依頼も積極的に受入れを行った。

また支援終了の理由は、介護保険施設への入居・永眠される方が多数あり、新規受入れ数に対し支援終了者が上回る結果となった。例年出入りの変動が多い状況を踏まえ、引き続き新規獲得は積極的に行っていきたい。

### 【年度目標②】 ケアプランデータ連携システムの導入

(評価) 令和7年6月より、システムの運用を開始した。法人内での試行を行い、他事業所との連携を順次進めた。この結果、令和7年度末の時点で16事業所との連携を開始することができた。連携先の増加により、各職員の事務作業の削減に繋がった。また、利用者ごとに紙面にてFAX送信を行う作業が減少し、コスト削減の一助となった。令和8年度に入っても新たに運用を開始する事業所は増加中であり、更に活用の幅が広がると期待している。

また業務効率化に向けた取組みとして、このシステム以外にもICT化に向けた情報収集を積極的に行い、活用の検討を進めていきたい。

### 【年度目標③】 研修への積極的な参加

(評価) 各職員が年度初めに設定した研修計画をもとに受講。その他、毎年実施される他事業所との合同事例検討会に全職員で参加。担当事業所の職員が事例発表を行い、支援に関する検討が行われ自己研鑽の場として大変有意義な時間となった。

また、年4回開催された渋川市介護支援専門員研修への参加のほか、吉岡町主催の介護支援専門員研修・情報交換会にも参加。その中で多くのケアマネジャーの意見を聴く機会を得て学びを深め、日頃の業務に関する悩み事など、情報交流を図ることができた。

**【年度目標④】 感染症の動向に応じた柔軟な利用者支援**

(評価) コロナやインフルエンザなどの感染症対策について、地域や各事業所の流行状況を把握しながら対応を行った。年度を通して感染情報を収集しながら業務を行ってきたが、大きな流行はなく担当利用者がサービスを制限されるなどの影響はなく年度を終えることができた。

## 2) 付表

表1-1 要介護度別利用状況

単位：人

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和7年度	549	524	231	175	52	1,531
令和6年度	446	423	223	157	61	1,310

表1-2 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	43	44	42	45	42	44	45	50	46	41	43	41	526
女	71	75	77	79	81	83	84	87	94	95	92	87	1,005
合計	114	119	119	124	123	127	129	137	140	136	135	128	1,531
令和6年度	101	97	101	106	110	110	117	113	108	115	115	117	1,310

表2 介護予防 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	11	12	13	13	14	14	14	14	13	12	11	12	153
女	20	19	19	18	18	17	17	19	20	18	17	19	221
合計	31	31	32	31	32	31	31	33	33	30	28	31	374
令和6年度	20	28	28	24	23	24	26	27	25	25	28	32	310

表3 合同（5事業所）事例検討会実施状況

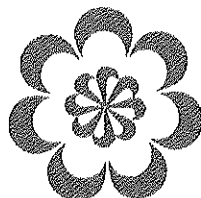
実施日	実施場所	事例検討内容
令和7年7月17日(木) 13:30~	澁川市社会福祉協議会子持支所 会議室	事例提供事業所ケアマネが課題を感じている ケース事例を検討する (事例提供：澁川中央病院)

※上記1回、全職員にて参加。



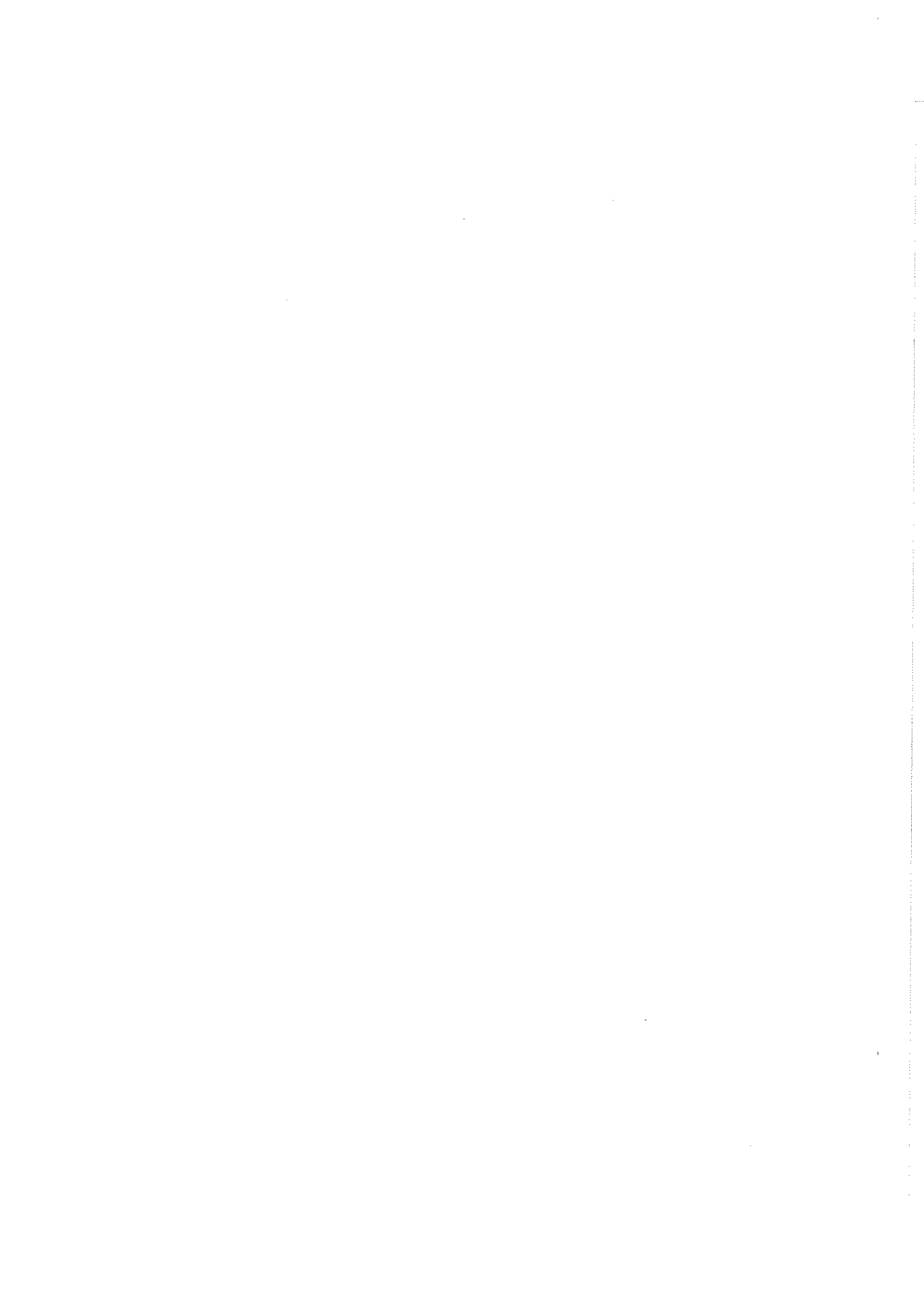
令和7年度

# 事業報告書



社会福祉法人 永光会

澁川市古巻地域包括支援センター  
指定介護予防支援事業所



## 1) 総括

渋川市古巻地域包括支援センター（以下、古巻包括）は、渋川市の事業委託を受け、委託期間3期（令和6年～8年度）通算8年目の運営となった。

古巻地域において、半田の居宅介護支援事業が閉鎖、新たに有馬に居宅支援事業所が開所された。また、古巻公民館改築のため閉鎖されたため、一時的に各種教室開催の会場を変え、有馬会館や永光荘会議室にて実施した。

虐待ケースや支援困難ケースは常に流動的で、時にケース対応が重複し繁多な時期があった。

いずれも、地域に根差す社会福祉法人永光会が運営する古巻包括として、高齢者がその人らしく在宅生活が送れるよう、関係機関と連携を図りながら支援活動を行っていくことを大切に考えてそれぞれ対応した。

## 2) 包括的支援事業

### (1) 周知活動業務

感染予防に注意を払いながら、独居者宅訪問を含む地域の高齢者や各関係機関等に向けて、引き続き古巻包括及びその母体である社会福祉法人永光会の周知を行った。事務室は半田地区にあることから、自治会総会にて挨拶を行い、夏祭りには綿菓子屋として参加した。

### (2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 <表1-1・2>

地域の高齢者が住み慣れた場所で暮らすことができるよう、介護サービスを利用していても心配なケースについては、同行訪問や関係機関へのつなぎ・仲介等を含め担当の居宅介護支援事業所ケアマネジャーに対する後方支援を行った。

また、介護予防支援業務を委託している市内外の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対して、予防プランの内容チェックや要介護認定者を含めケアマネジメントに関する質問・相談等の支援を行った。

なお、今年度の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員の交流会は、豊秋・西部地区と合同開催をした。

### (3) 総合相談支援業務 <表3>

地域で生活する高齢者等に関する多種多様な相談を受け、その内容によって必要・適切と考えられる各種専門機関や制度・サービス等へのつなぎや紹介を行った。

多くの問題を抱える高齢者に対しては、医療・福祉・生活面で切れ目のないサービス提供が図られるよう関係者と連携・調整し在宅生活継続の支援を行った。

民生委員の定例会出席（計11回）にて、関与いただいた事例を通じた報告等を行い、顔の見える関係性の構築に努めた。令和7年度についても地区担当民生委員から新規で13件の相談があり、その都度情報の共有や連携を図り対応を行った。

介護保険での担当ケアマネジャーとしての動きも含めた3職種合計の延べ対応件数としては年間で、3,067件であった。

(相談内訳として、電話：1,856件・来所：136件・訪問：972件・その他：103件)

具体的には、70歳代独居男性が熱中症と思われる症状にて自宅内で亡くなっていたケースや、独居男性70歳代前半の方へ退院後の在宅支援のために医療ソーシャルワーカーと連携しゴミの山を片付け対応したり、80歳代前半の方が体動困難にもかかわらず救急搬送を拒み、翌日に意識混濁状態となり再度救急搬送したりした。

#### (4) 権利擁護事業

高齢者の権利擁護に関する活動に対応した。

高齢者虐待(疑いも含む)の案件では、前年度からの継続対応中のものが1件あり、新規の通報は2件。高齢者虐待対応マニュアルに沿って対応を行い、1件は虐待扱いとしないと判断され、もう1件は状況・事実確認中である。

状況確認のための情報収集に伴う訪問や電話等で合計74回の対応を行った。

消費者被害・特殊詐欺等の対応は折込チラシから独居者女性が庭木の伐採を依頼し、業者からの提案か本人の依頼か不明だが、付随して片付けや木の伐採をしたことによるトラブルが発生した。また、訪問か電話によるプロバイダー契約で電話回線変更工事を実施し、電話が使えなくなる状況になったが、本人は覚えておらず、渋川市消費生活センターと連携契約解除をしたケースがあった。

#### (5) 介護予防教室・家族介護教室

古巻地区の住民を対象として、9月に「骨折予防とロコモの話」と題し介護予防教室を実施した。

また、古巻地区の住民を対象として、3月に認知症の方に寄り添うためにと題し、VR(バーチャルリアリティ)体験を通じ、認知症の方の行動を理解して関わり方の工夫を学ぶ家族介護教室を開催した。

#### (6) 地域ケア会議の開催

ケア会議は2件。独居の女性について、関係機関と情報を共有し、在宅支援を継続するために、それぞれの役割を確認し、自立支援型地域ケア会議を9月に1回開催した。住み慣れた地域で、健康意欲を損なうことなく、自立意欲を持って継続して生活を送るにはどのように支えられるか、ケアマネ・病院理学療法士・管理栄養士・ヘルパー・歯科衛生士・薬剤師・生活支援コーディネーターらと検討を行った。2事例の検討を行い、今後の支援にすぐに活かすことができる助言を多角的にいただくことができた。

#### (7) 在宅医療・介護連携推進業務

退院に伴う在宅復帰支援を含め利用者の状態や生活状況の変化に応じて、その都度適切と思われる介護サービス等の提供がなされるよう医療機関・介護サービス事業所との連携調整を行った。

#### 8) 生活支援体制整備事業

古巻地区地域助け合い活動推進協議体に構成員として、会議に参加した。  
地域の課題を表出し、ハロウィンイベントとして、子どもが高齢者宅を訪問する行事や有馬会館にて居場所作り「ふらっとおいでよ」と題した行事への参画をした。

#### (9) 認知症総合支援事業

一般市民を対象に認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に関する理解と普及啓発を行った。その結果、関係者や受講者に対し新たに古巻包括及び社会福祉法人永光会の周知が図れた。(有馬会館にて開催)

また、渋川市が主催する「小学生のための認知症まなびの講座」のスタッフ員として実施に協力した。(市内7小学校へ訪問)

その他の取組みとしては、高齢者に対し渋川市の「認知症あんしんガイド」を配布し理解と啓発に努めた。なお、徘徊高齢者等事前登録の新規申請支援は3件で渋川警察署担当課と連携を図っている。

#### 3) 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業対象者及び要支援認定者に対して、自立支援と住み慣れた地域での生活の継続に向けて、介護保険を始めとしその他各種フォーマル・インフォーマルなサービス利用が行えるよう支援を行った。

#### 4) 災害発生時の対応

地域の高齢者等に併設の特別養護老人ホーム永光荘が「福祉避難所」として位置づけられていることを周知し、避難訓練に参加した。

引き続き古巻地区自主防災組織のメンバーとも情報の共有を図り、災害発生時には行政や特別養護老人ホーム永光荘と支援の連携を図って行くこととする。

なお、直持ちケースの利用者連絡一覧を再作成し、パソコンが使用できない場合の緊急時に備えた。

#### 5) 委託の在り方の検討

令和7年度については業務マニュアルの大きな変更はなく、前年度同様に公益性・地域性・協働性の視点で業務を遂行した。

今年度、地域包括支援センター看護師の退職あり。3月には新たな看護師が入職したが、約3か月間は2人体制の対応する期間があった。そのため、事業開催の内容の変更や日時変更は生じたが、各委託包括と業務内容に関する情報の共有や課題に対する共通認識を図り、適宜中央包括や市役所担当課に確認・助言を求め、事業を展開した。

6) 付表

表1-1・2 プラン月別件数

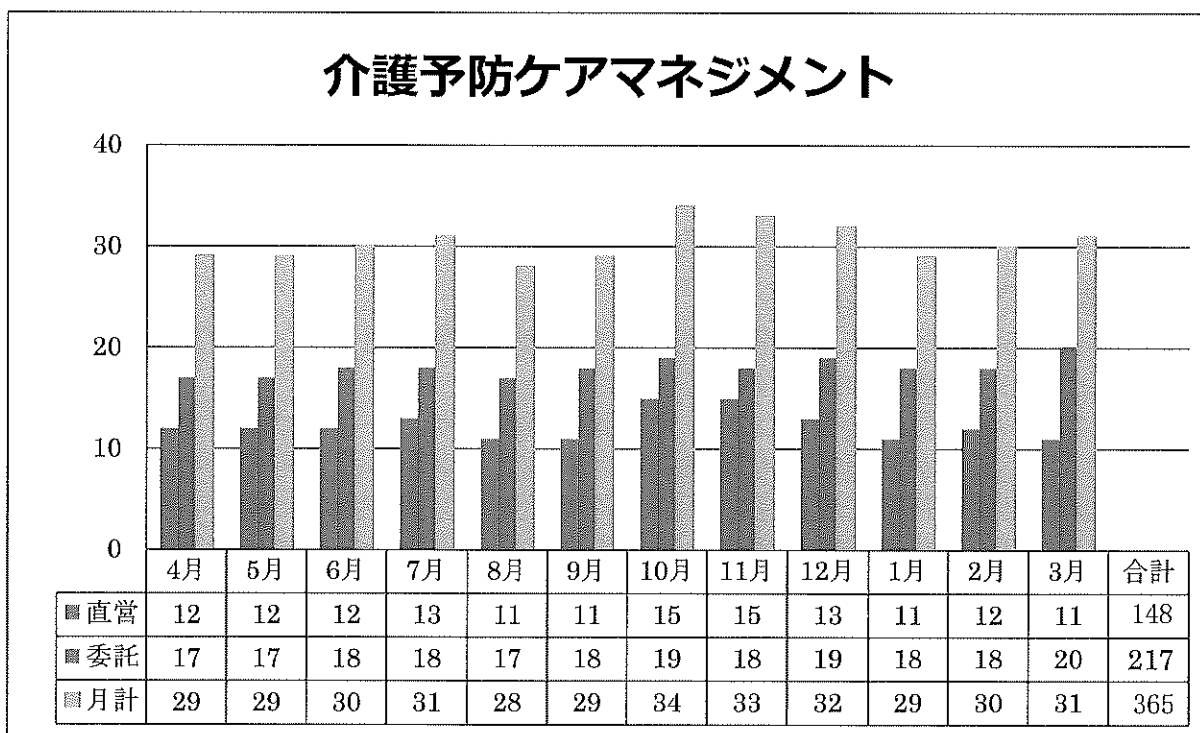
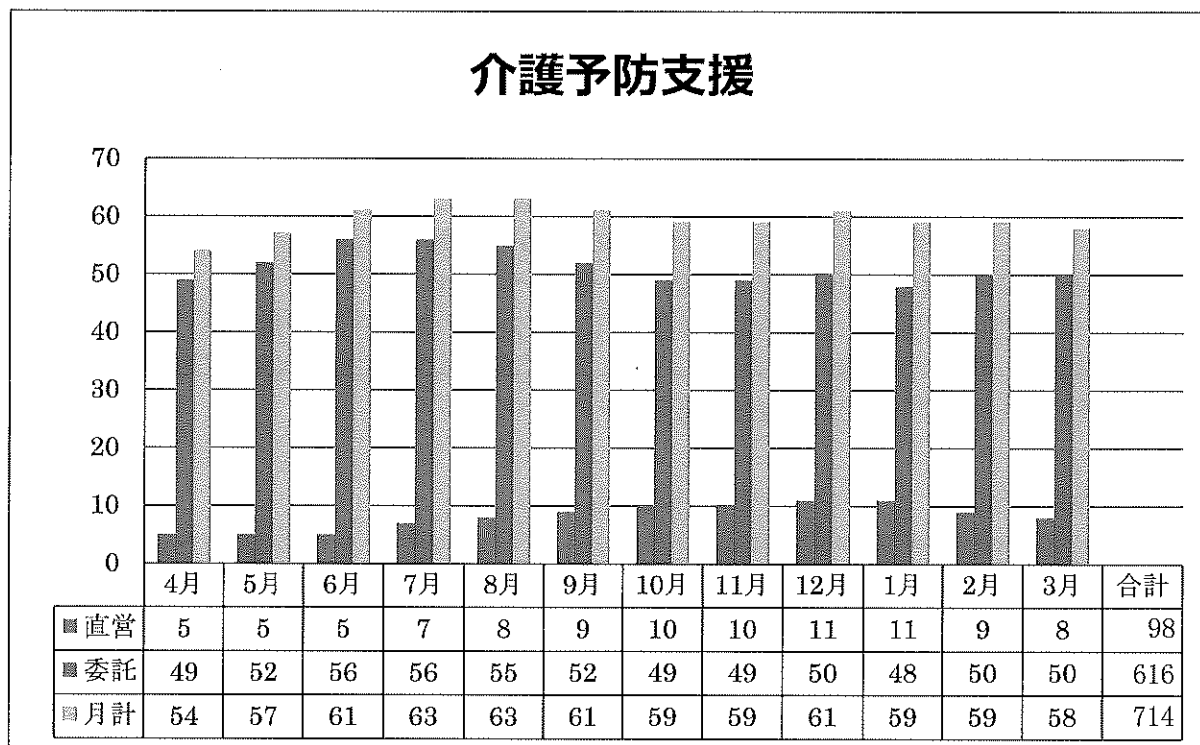


表3 総合相談支援月別件数

